事務事業及び予算の執行実績

（令和6年度分「一部、令和7年度分を含む」）

静岡県立小笠高等学校

目　　次

事務事業の概要　・・・・・・・・・1
事務執行の根拠法令調　・・・・・・・・・27
学校施設の概要　・・・・・・・・・28
在籍生徒調　・・・・・・・・・30
入学志願者及び入学者数調　・・・・・・・・・31
卒業生の動向調　・・・・・・・・・32
生徒の状況　・・・・・・・・・35
授業料収納状況調　・・・・・・・・・36
県収入証紙により徴収した使用料及び手数料調　・・・・・・・・・37
預金調　・・・・・・・・・38
郵券等受払調　・・・・・・・・・38
材料品受払調　・・・・・・・・・39
委託料等歳出予算執行状況節別集計表　・・・・・・・・・40
委託料に関する調　・・・・・・・・・41
負担金支出調　・・・・・・・・・46
建築工事調　・・・・・・・・・48
公有財産調　・・・・・・・・・50
借地借家等調　・・・・・・・・・52
事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調　・・・・・・・55
行政財産貸付・使用許可調　・・・・・・・・・56
主要備品調　・・・・・・・・・58
生産物受払調　・・・・・・・・・60
職員調　・・・・・・・・・62
職員の年齢調　・・・・・・・・・65
健康管理　・・・・・・・・・66

□□□□□

事 務 事 業 の 概 要

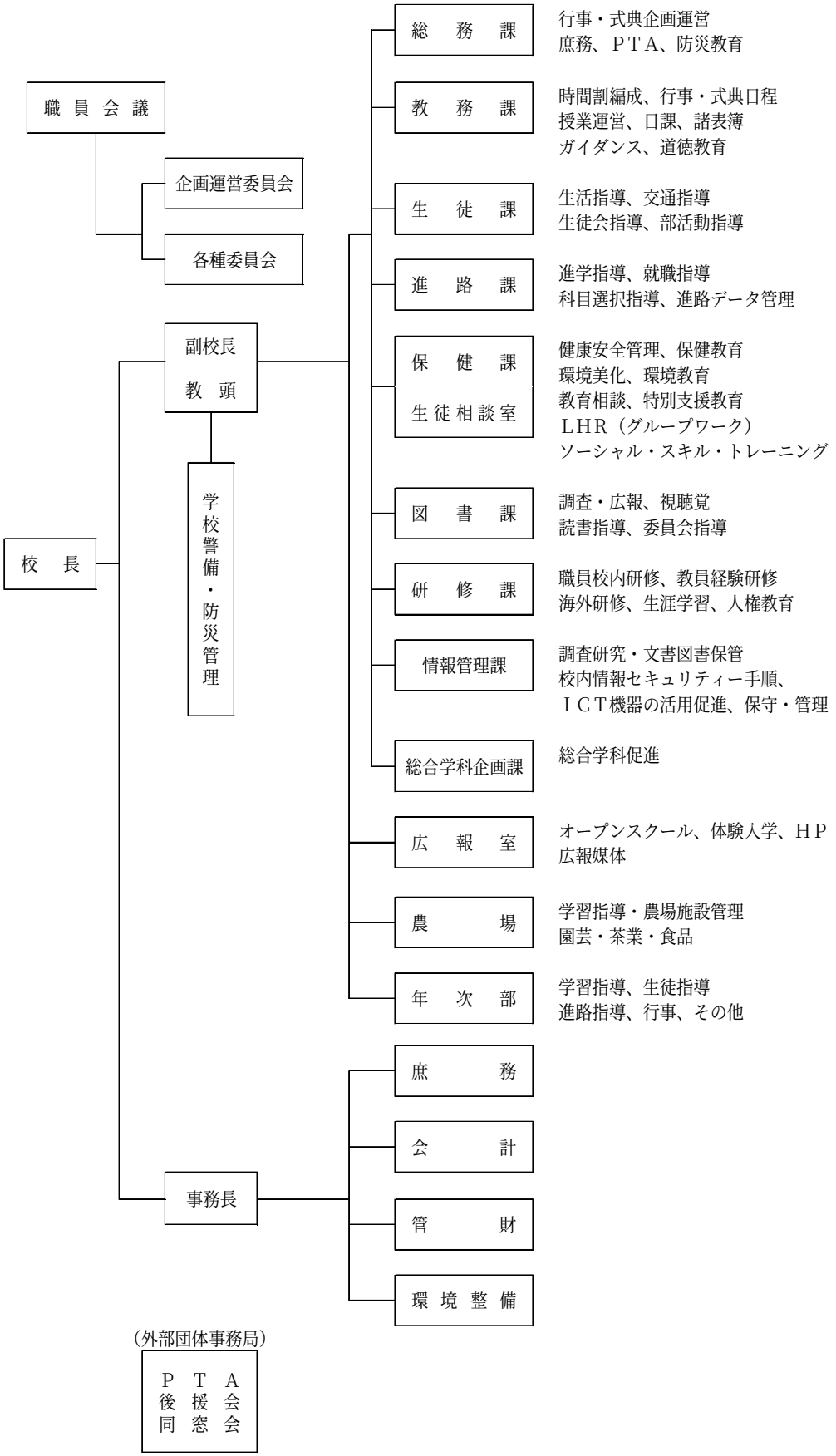
1　概　況

(1) 学校の沿革

大正元年11月11日	郡立静岡県小笠農学校（乙種）創立
２年４月７日	開校（静岡県小笠郡六郷村半済1633番地）定員150人
９年４月10日	静岡県小笠農学校と改称（甲種）
11年３月20日	県立移管、静岡県立小笠農学校と改称
昭和16年４月１日	学級増加認定２学級となる。
19年４月１日	静岡県堀之内女子農業学校を県立に移管、小笠農学校女子部となる。（学則変更、男子初修５年制、女子高修２年制）
21年４月１日	女子高修３年制となる。
23年４月１日	学制改革により静岡県立小笠農業高等学校（農業科）となる。
23年９月１日	定時制農業科設置（４年制）
24年４月１日	農業別科設置（１年制）
25年４月１日	五和分校（定時制農業科夜間）開設
30年４月１日	学則変更、農業課程家庭科設置
34年３月１日	定時制農業科募集停止
34年３月31日	五和分校を島田高等学校へ移管
36年３月１日	農業別科募集停止
38年４月１日	茶業科、農業土木科設置、家庭科は生活科と改称
41年６月１日	文部省より農業自営者養成農業高等学校に指定される。
42年４月１日	園芸科設置
42年９月30日	寄宿舎完成（仰高寮）
43年５月22日	本館完成
43年６月10日	現学校敷地に全面移転開校
43年11月30日	体育館兼講堂完成
46年11月30日	新農場（高田ヶ丘農場）完成
49年３月20日	格技場完成（錬心館）
54年３月30日	プール・テニスコート完成
56年３月30日	グラウンド拡張工事完成
57年４月１日	募集定員160人、４学級（農業科）となる。
57年９月30日	至誠会館完成
58年４月１日	募集定員200人、５学級（農業科）となる。
58年12月24日	本館（管理室、普通教室）耐震補強工事完成
62年４月１日	農業科募集停止、食品流通科設置（定員40人）
63年３月15日	食品流通実習棟完成
63年10月15日	特別教室棟耐震補強工事完成

平成３年４月１日	生活科を生活科学科に改編（定員40人）
４年11月６日	創立80周年記念式典挙行
７年４月１日	静岡県立小笠高等学校と改称
	農業関係学科募集停止、総合学科設置（定員320人）
８年３月21日	総合実習棟完成
８年８月30日	普通教室棟完成
８年10月31日	自転車置場完成
９年２月28日	農業学科閉科式典挙行
９年３月14日	外構及びグラウンド改修工事完成
９年８月25日	高田ヶ丘農場便所建替工事完成
10年３月14日	グラウンド敷地造成工事完成
10年３月25日	弓道場完成
10年３月25日	体育館敷地造成工事完成
11年９月３日	体育館完成
12年３月24日	部室棟完成
14年11月８日	創立90周年記念式典挙行
16年４月１日	募集定員280人、７学級となる。
16年11月15日	総合学科10周年記念式典挙行
18年４月１日	募集定員240人、６学級となる。
22年１月29日	管理棟、特別教室棟及び渡り廊下耐震補強工事完成
23年２月28日	美術棟、プール付属棟耐震補強工事完成
23年８月30日	農場本部棟、園芸実習棟耐震補強工事完成
24年３月２日	園芸実習棟、工芸室棟、茶業実習棟耐震補強工事完成
24年11月８日	創立100周年記念式典挙行
24年12月28日	至誠会館改修工事完成
26年１月30日	更衣室棟新築工事完成
27年１月29日	総合学科20周年記念式典挙行
令和３年４月１日	募集定員200人、５学級となる。
４年11月25日	創立110周年記念式典挙行

(2)　組織図w


職員会議
企画運営委員会
各種委員会
校長
副校長
教頭
学校警備・防災管理
事務長
総務課
行事・式典企画運営
庶務、ＰＴＡ、防災教育
教務課
時間割編成、行事・式典日程
授業運営、日課、諸表簿
ガイダンス、道徳教育
生徒課
生活指導、交通指導
生徒会指導、部活動指導
進路課
進学指導、就職指導
科目選択指導、進路データ管理
保健課
生徒相談室
健康安全管理、保健教育
環境美化、環境教育
教育相談、特別支援教育
ＬＨＲ（グループワーク）
ソーシャル・スキル・トレーニング
図書課
調査・広報、視聴覚
読書指導、委員会指導
研修課
職員校内研修、教員経験研修
海外研修、生涯学習、人権教育
情報管理課
調査研究・文書図書保管
校内情報セキュリティー手順、
ＩＣＴ機器の活用促進、保守・管理
総合学科企画課
総合学科促進
広報室
オープンスクール、体験入学、ＨＰ
広報媒体
農場
学習指導・農場施設管理
園芸・茶業・食品
年次部
学習指導、生徒指導
進路指導、行事、その他
庶務
会計
管財
環境整備
（外部団体事務局）
ＰＴＡ
後援会
同窓会

2　スクールミッション

県内屈指の授業科目数を誇る総合学科高校として、校訓『至誠実行』のもと、生徒一人ひとりのニーズに対応した授業や、充実した探究的な学習・課題解決型学習を通して、地域社会の未来を支え貢献しようとする人材の育成を目指す。

3　監査対象期間の年度別学校経営の取組等

（１）令和６年度の取組目標への評価及び成果と課題（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	基本的生活習慣の確立と社会性の育成（協働力）	・挨拶、時間、服装の習慣化とマナー向上を心掛けた生徒90%以上	・生徒アンケート肯定回答 98.1%	A	・次年度以降も継続した指導を行っていきたい。
		【１年次】 ・時間を守り、身だしなみを整え、マナー向上を心掛けて生活できる。 ・全遅刻者のうち不注意遅刻の生徒 10%以下。 ・進んで挨拶をし、相手を思いやる言葉遣いや振る舞いができる。	・「挨拶・時間・服装の習慣化とマナー向上を心掛けた」生徒アンケート 100%。不注意遅刻は 10%以下である。 ・正しい制服の着こなしは、特にスカートの長さを守るようになった。 ・昇降口や廊下での挨拶は相手に聞こえる声でできる生徒が増えた。 【全校】 ・「不注意遅刻がない」生徒アンケート肯定回答 93.6%	A A	・１年間を通して、「時間を守る、提出物の徹底、ルールを守る」を柱に、折にふれ、生徒へ自覚を促す声掛けを行った結果、多くの生徒が基本的な生活習慣が身についた。今後もこれらを維持し、校内校外問わず良い振る舞いができるように、生徒の意識を高めたい。 【全校】 ・次年度以降も継続した指導を行っていきたい。
		【２年次】 ・主体性を持って行動できた生徒 70%以上 ・２日以上連続して欠席(出席停止等を除く)しない生徒 80%以上 ・提出物を期限内に提出する生徒 80%以上	・生徒アンケートより 89% ・皆勤～1 日欠席 45%保健室より 60%程度 ・生徒アンケートより 76%	A B B	・年次集会や日々の生活の中での声掛けの成果。 ・目標設定が調査しにくいものであった。 ・日々の生活の中での連携（担任・教科担当・部活動顧問等）が必要であった。
		【３年次】 ・主体性を持って行動できた生徒 70%以上	・生徒アンケートでは生活、学習ともに主体的に取り組む生徒は 70%	A	・クラス、授業、部活などさまざまなところで主体性を育む指導ができている。

		・２日以上連続して欠席(出席停止等を除く)しない生徒80%以上 ・提出物を期限内に提出する生徒80%以上	を超えている。 ・２日連続で欠席した生徒はおよそ30名程度である（入院出停等を除く)。 ・提出物の期限は92.7%が提出できた。		・欠席理由はさまざまで今後この目標の見直しが必要である。
		・交通事故・違反数 年間 10 件以内 ・自転車の未施錠点検を週１回行っている。	・年間の交通事故件数２件 ・「交通事故・違反がない」生徒アンケート肯定回答98.7%	A	・交通事故や違反件数は少ないがヘルメット着用を推奨していきたい。
イ	安全で安心できる学校生活の確保	・地域防災訓練参加率85%以上	・地域防災訓練参加率78.6%	B	・参加する意思がなかった生徒が多かった。地域防災訓練を実施しない地区や地区ごとに日程が異なるため、調整や対策の検討が必要である。
		・人権教育の伝達研修及び校内研修の実施 ・人権意識の視点に立った教育を適切に行っている職員90%以上	・学校評価に関わる教職員アンケートにおいて「人権教育資料や研修報告の共有および啓蒙活動により、人権尊重の精神に基づいた教育活動を行った。」と回答した教職員は87.2%であり、概ね達成できた。	A	・学校評価に関わるアンケートにおいて「学校は、人権意識の視点に立った教育を適切に行っていた。」と回答した生徒は91.3%、保護者は85.6%であった。来年度は100%を目指して教職員一人一人が意識して取り組む。
		・問題や悩みを持つ生徒に対し、必要なケース会議を迅速に実施している。 ・相談しやすい雰囲気が整っていると思う生徒 75%以上 ・「心の健康状態調査」を年２回実施し、個別データに対する確実な支援を実施する。	・ケース会議は３件実施 ・学校評価に関わるアンケートにおいて「悩み事などを気軽に相談することができた。」と回答した生徒は79%であり、目標を達成することができた。 ・アンケートは予定通り２回実施。適	A A	・情報の共有を図るとともに具体的な対応策を検討することができた。 ・学校評価に関わるアンケートにおいて「学校は、生徒が相談しやすいような雰囲気が整っている」と回答した保護者は76.9%、「相談室、保健室、カウンセラー、担任等が連携し、生徒のケアを行えた」と回答した職員は86.9%だった。 来年度は学校と保護者

			切に対応した。	A	が連携し、生徒の問題を解決する方法を探っていきたい。 ・未回答生徒への声掛けを徹底し、迅速に集計できるよう心掛ける。
		・ごみの分別・削減を心掛けている生徒 90%以上。	・生徒、職員ともに校内美化の高く、目標達成できた。 （生徒 95.2% 教員 95.0%）	A	・放課後の校内美化活動として、トイレの見回りを行った。不要なもの、壊れた掃除用具を撤去することで、清掃用具入れの整理整頓ができるようになった。 ・部室の整理整頓を徹底するため、月１回のごみの回収を行ったことも生徒の意識向上に繋がった。
ウ	基礎学力の定着と主体的な学びの実現（探究力、協働力、設計力、継続力、発信力）	・授業に意欲的に取り組んでいる生徒 80%以上 ・宿題や課題を確実に行い、提出物を出せる生徒 75%以上	・授業に主体的に取り組んでいる生徒 97.5%。 ・期限までに提出物を提出できた生徒 92.7%。	A	・生徒の科目選択などを丁寧に行っているため、授業への意欲を高めていることができている。 ・担任、担当者がクラスルームなども活用して連絡を行うことで提出率が高まっているように感じる。
		・「高校生のための学びの基礎診断」結果を関係教員と共有し学習指導の改善に役立てている。	・教員 44.7%が肯定。スタサポの結果を年次や教科と共有することができた。	B	・年次ごと結果報告会を実施できた。さらに有効に利用する方法はないか検討したい。
		・授業に満足している生徒 80%以上 ・授業評価の結果を活用する教員 80%以上	・授業に満足している生徒 91.6%。 ・授業評価の結果を活用する教員 84.6%。	A	・生徒の科目選択などを丁寧に行っているため、授業への満足度は高い。 ・教員数の減少から科目選択の生徒を選抜するなど、科目選択について現実的な対応をしている。 ・前期よりも後期に実施した授業アンケートの方が 10 項目中 8 項目で肯定的な数値が増えている。教員１人１人が授業改善を進めた結果と考えられる。

		・朝読書の実施により、落ち着いて学校生 活 を スタートすることができた生徒 90%以上。	・読書時間を有意義に過ごすことができている。91.7%	B	・朝読書の習慣が定着している。クラス文庫や移動図書を充実させることが今後の課題である。
		・１年次は探究サイクルの学びを重視、２年次は探究したい問いの発見を重視、３年次は成果を伝え、活動実践を重視して取り組んでいる。 ・「課題研究発表会」の成果発表に対する生徒の肯定的評価 平均 80%以上	【教務課】 ・１年次 93.6%、2年次 93.7%、3年次 97.4%が探究活動を肯定的に振り返っている。 ・「課題研究発表会」の成果発表に対する生徒の肯定的評価 88% 【1年次】 ・「進路探究」「産業社会と人間」「企業見学」等を通し、いろいろなものを見たり、人の話を聞いたりしながら、「働くとは」ということや「自己の長所や関心」について探究することができた。 【総合学科企画課】 ・２年次、問いの発見を重視した活動を例年通り行うことができた。 【進路課 ・産社の授業の中で探究活動やプレゼンの基礎について学ぶことができた。 【２年次】 ・生徒アンケートより 85%	A A B A A	【教務課】 ・探究の授業を通じて、生徒に「探究力」「発信力」身につけさせたと 84.6%の教員が回答。 ・３年間で系統的に探究活動を行うことで３年次の満足度を高めることができた。 【1年次】 ・探究を通して、自己について考え、系列を決め、２年次からの科目を選択することができた。今後は自ら行動を起こし、視野を広げ、必要なことは何かを考える力と行動力を身に付けたい。 【総合学科企画課】 ・より良い問いを創るためのテーマの工夫が必要である。 【３年次】 ・課題研究に取り組む姿は良好である。 【進路課】 ・さらに良いものするように計画を立てたい。 【２年次】 ・各自が探究したい問いの発見を重視して取り組むことができた（地域探究・各授業等）
エ	体系的なキャリア教育	・「産業社会と人間」「進路探求」を通して「設計力」「継続力」を身に付けた生徒 80%以上	・教員 84.3%、生徒 96.1%、保護者 88.6%が肯定。	A	・担当の先生を中心に充実した授業を行なうことができた。

	と進路指導の充実（設計力、継続力）	・１年次企業説明会の満足度80%以上 ・インターンシップ参加生徒の満足度 80%以上	・教員 84.3%、生徒97.8%、保護者85.9%が肯定。 ・生徒の満足度100%。事前指導からしっかりと行うことができた。		・十分満足する内容であった。 ・参加率をもっと増やしたい。
		・自己の適性を生かした企業選択ができた生徒 90%以上 ・保護者による就職模擬面接の実施 ・就職希望者の一次募集での内定率 80%以上	・生徒 97.1%、保護者 85.7%が肯定。手厚い指導で本人にあった企業を選ぶことができた。 ・保護者の進路委員に協力していただき模擬面接試験を行うことができた。 ・一次募集での内定100%。事前準備をしっかりと行うことができた。	A	・就職説明会を継続的に行い、丁寧な指導ができた。 ・協力してくださった保護者の方から大変評判が良かった。 ・売り手市場であることは事実だが、指導してくださった先生方や生徒が頑張った証拠である。
		・進学希望者の第一志望達成率80%以上 ・検討会や会議において必要な情報を関係職員が共有し進路指導に活用している。	・生徒 94.3%、保護者 92.3%が肯定。第一志望達成率は目標を達成できた。 ・教員 84.6%が肯定。目標や狙いを事前に説明することができた。	A	・本気で準備を開始する時期が遅い。計画的に準備に取り掛かれるように指導したい。 ・さらに検討会の目的や狙いをはっきりとさせて進路指導に敷かせるようにしたい。
オ	地域との連携活動、特別活動、課外活動の活性化と情報発信	・文化祭や体育大会、ホームルーム活動等主体的に取り組んだ生徒 90%以上	・生徒アンケート肯定回答 98.0%	A	・各クラスや年次での関係が築けている。
		・部活動を通して、「協働力」「受容力」を向上させた生徒90%以上	・生徒アンケート肯定回答 95.3%	A	・各部活動における顧問と生徒の関係が築けているため、次年度以降も継続した指導を行っていきたい。
		・課題研究等の授業、生徒会活動、部活動等の活動において、地域との連携・交流活動を活発に実践できた生徒90%以上 ・「小さな収穫祭」の実施。	【教務課】 ・課題研究等の授業、生徒会活動、部活動等の活動において、地域との連携・交流活動を活発に実践できた生徒 87.4%	B	【教務課】 ・課題研究や産業社会と人間などの授業で、外部講師を招いたり、外部団体と交流するなど、各担当で工夫した授業に取り組んだ。

			・菊川市、地域の教育機関、諸団体との連携・交流を組織的に継続的に推進できたと 81.5%の教員が回答。 【福祉科】 ・「福祉探究」の授業において、菊川市内の病院や福祉施設と連携して探究活動を行うことができた。また、児童館において月に１回、定期的に交流活動を行うことができた。また「小さな収穫祭」において、障害者施設と連携して実施することができた。 【生徒課】 ・野球部、柔道部、陸上競技部、女子バレーボール部、女子バスケットボール部、男子バスケットボール部、ソフトテニス部、食品加工部、吹奏楽部などが地域や中学校との交流をしている。文化祭におけるこども園・小学校の交流を行っている。 【農業科】 ・小さな収穫祭において学校生産物の販売や「課題研究」の報告など地域と連携した活動が展開できた。	A A A	・授業時間で交流を企画するのは現実的に難しい部分がある。 【福祉科】 ・地域に貢献しようと前向きに活動する生徒の育成につなげることができた。参加系列を増やすことで小笠高校の魅力をさらに地域にアピールすることができるのでなないかと考える。 【生徒課】 ・次年度以降も継続していきたい。 【農業科】 ・学校生産物の販売（茶・草花苗・露地野菜）を行うことができた。また課題研究の取り組みも紹介することができた。他教科への呼びかけも行い、工業化とも協力して進めることができた。今後は、農業科

					だけでなく他教科とも協力しながら進めたい。
		・学校運営協議会が「地域とともにある学校」をめざし、学校運営に対する支援の拡充に向けて協議する場となる。	・学校運営協議会があまり機能していない状況である。職員対象のアンケートでも肯定的な意見は64.1%にとどまっている。	B	・実施回数及び時期について検討が必要である。対面での実施に代えて書面で意見を求めるなどの工夫が考えられる。
		・校ホームページ/インスタグラム記事のアップロード数が月平均20本以上。	・学校ホームページ/インスタグラム記事のアップロード数月平均20本以上	A	・各団体のインスタグラムの統合・リンクを進める
		・一日体験入学、オープンスクールの参加者の満足度 90%以上	・一日体験入学、オープンスクールの参加者の満足度 86.7%	A	・日程・資料・地図・案内やトイレなど設備改修への要望などさらなる改善に取り組む
カ	教育環境の整備と事務業務の効率化	・ＩＣＴ環境の整備により、教育の質が向上した、あるいは、業務が円滑になった、業務が軽減したと回答する教諭が80%以上	・ＩＣＴ環境の整備により、教育の質が向上したと回答する教諭が86.5%、業務が円滑になった、業務が軽減したと回答する教諭が80%となった。	B	・全体への周知はもちろん、個々の質問にも迅速に対応し、教諭のＩＣＴ使用の意識向上に努めた。また、教務課の依頼により、百問繚乱の使用環境に尽力し、業務軽減に貢献した。今後はNES端末の更新や共有パソコンの整備、貸出備品の整理に尽力していく。
		・職員の要望を取り入れた図書資料の整備 を行っている。	・職員からの要望を定期的に集約し、図書資料の充実を図った。	B	・要望があった図書資料は購入することができた。
		・危険回避の観点で施設・設備の補修を行う。 ・備品等の購入を、優先順位を明確にして的確に行っている。	・施設・設備について危険回避の観点で補修を行った。 ・予算の減少・物価の高騰により教育備品については整備が難しかった。	B	・施設・設備が老朽化しており修繕していくことが困難である。 ・経営予算は、経常的支出で消化され厳しい状況である。限られた予算で学校経営に支障のない予算執行を行う。
キ	職員の勤務状況改善及び職員の資質向上の	・業務を精選・整理した分掌等90%以上	・業務の精選と効率化を図ったと回答した教職員は84.6%	B	・働き方改革を念頭に、さらなる業務改善の必要がある。

	推進	・校内研修の内容満足度 85%以上	・ICT に関わる校内研修会におけるアンケート結果より、職員満足度は、第１回 100%、第２回が 90.7%であり、充実した研修会を行うことができた。	A	・校内研修会のアンケート結果や教職員の意見を参考にしながら、来年度も職員満足度が 85%を上回るよう職員の要望を聞きながら企画していく。
		・各月の完全退庁時刻以前に退庁できた日の割合が 80%以上	・勤務時間管理を適正に行い、各職員が設定した定時退勤日を設けた 73.7%	B	・業務が集中する時期はどうしても忙しい。

（２） 令和７年度の取組目標・達成方法・成果目標（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
ア	基本的生活習慣の確立と社会性の育成（協働力）	全校集会や年次集会等を活用して全職員で統一した指導を行う。 進んで挨拶、時間を守る、身だしなみを整える等の習慣化と、マナー向上を心掛けた生活の推進。	・挨拶、時間、服装の習慣化とマナー向上を心掛けた生徒 90%以上
			・時間を守り、身だしなみを整え、マナー向上を心掛けて生活できる。 ・全遅刻者のうち不注意遅刻の生徒 10%以下。 ・進んで挨拶をし、相手を思いやる言葉遣いや振る舞いができる。
			・主体性を持って行動できた生徒 70%以上 ・２日以上連続して欠席(出席停止等を除く)しない生徒 80%以上 ・提出物を期限内に提出する生徒 80%以上
			・主体性を持って行動できた生徒 70%以上 ・２日以上連続して欠席(出席停止等を除く)しない生徒 80%以上 ・提出物を期限内に提出する生徒 80%以上
		交通安全教室や委員会活動を通して、交通ルール・マナーの遵守、交通安全意識の高揚を図る。	・交通事故・違反数 年間 10 件以内 ・自転車の未施錠点検を週１回行っている。
イ	安全で安心できる学校生活の確保	危機管理マニュアルに則した実践的な危機管理を行うとともに、地域防災訓練への参加を促進する。	・地域防災訓練参加率 85%以上
		資料や研修報告の共有及び啓蒙活動により、人権尊重の精神に基づいた教育活動を行う。	・人権教育の伝達研修及び校内研修の実施 ・人権意識の視点に立った教育を適切に行 っている職員 90%以上
		生徒相談室・養護教諭・担任・年次・カウンセラー等が連携し、問題	・問題や悩みを持つ生徒に対し、必要なケース会議を迅速に実施している。

		や悩みをもつ生徒のケアを行う。	・相談しやすい雰囲気が整っていると思う生徒 75%以上 ・「心の健康状態調査」を年２回実施し、個別データに対する確実な支援を実施する。
		清潔な生活環境を保ち、校内美化とごみの削減を推進する。	・ごみの分別・削減を心掛けている生徒 90%以上。
ウ	基礎学力の定着と主体的な学びの実現（探究力、協働力、設計力、継続力、発信力）	アクティブな授業と適切な学習課題を通じて、基礎学力・技能を習得させるとともに、思考力・判断力・表現力等を向上させる。 「高校生のための学びの基礎診断」を有効に活用する。	・授業に意欲的に取り組んでいる生徒 80%以上 ・宿題や課題を確実に行い、提出物を出せる生徒 75%以上 ・「高校生のための学びの基礎診断」結果を関係教員と共有し学習指導の改善に役立てるように努めた。
		生徒による授業評価を年間２回実施し、結果に基づいた授業改善を行う。	・授業に満足している生徒 80%以上 ・授業評価の結果を活用する教員 80%以上
		読書活動を推進する一環として、本の紹介カードを作成させる。教室等に本を配架し、本に触れる機会を増やす。	・朝読書の実施により、落ち着いて学校生 活をスタートすることができた生徒 90%以上。
		「進路探究」「産業社会と人間」「地域探究」「茶文化探究」「課題研究」に取り組み、「探究力」と「発信力」を身に付ける。	・１年次は探究サイクルの学びを重視、２年次は探究したい問いの発見を重視、３年次は成果を伝え、活動実践を重視して取り組んでいる。 ・「課題研究発表会」の成果発表に対する生徒の肯定的評価 平均 80%以上
エ	体系的なキャリア教育と進路指導の充実（設計力、継続力）	キャリア教育、進路学習、インターンシップ等を、関係市、企業等と連携して実施することにより、系列・科目と進路の選択を支援し、３年間を見通した「設計力」「継続力」を育成する。	・「産業社会と人間」「進路探究」を通して「設計力」「継続力」を身に付けた生徒 80%以上 ・１年次企業説明会の満足度 80%以上 ・インターンシップ参加生徒の満足度 80%以上
		企業訪問による情報収集及び、企業説明会の実施により、生徒への正確な情報提供と実効性のある就職支援を行う。	・自己の適性を生かした企業選択ができた生徒 90%以上 ・保護者による就職模擬面接の実施 ・就職希望者の一次募集での内定率 80%以上
		大学進学希望者の主体性を促し、１年次から系統的な指導を行う。 進学に関する検討会や会議を、各年次において計画的に実施する。	・進学希望者の第一志望達成率 80%以上 ・検討会や会議において必要な情報を関係職員が共有し進路指導に活用している。
オ	地域との連携活動、特別活動、課外活動の	学校行事、生徒会活動、ホームルーム活動は、目的意識を明確にした取組になるよう工夫する。	・文化祭や体育大会、ホームルーム活動等主体的に取り組んだ生徒 90%以上
		部活動を通して向上心と社会性を育み、部活動の活性化を図る。	・部活動を通して、「協働力」「受容力」を向上させた生徒 90%以上

	活性化と情報発信	菊川市、地域の教育機関、諸団体との連携・交流を、組織的に、継続的に推進する。	・課題研究等の授業、生徒会活動、部活動等の活動において、地域との連携・交流活動を活発に実践できた生徒 90%以上 ・「小さな収穫祭」の実施。
		コミュニティ・スクールを通して地域や保護者等との協働を図り、信頼される学校づくりを推進する。	・学校運営協議会が「地域とともにある学校」をめざし、学校運営に対する支援の拡充に向けて協議する場となる。
		SNS 等を活用して地域、保護者に情報を日常的に提供する。	・提供情報数が月平均 20 本以上
		一日体験入学の行事等を通じて、中学生に本校の魅力を伝える。	・一日体験入学、オープンスクールの参加者の満足度 90%以上
カ	教育環境の整備と事務業務の効率化	ＩＣＴ、図書、教具等が効果的に活用できる教育環境を整備する。	・ＩＣＴ環境の整備により、教育の質が向上した、あるいは、業務が円滑になった、業務が軽減したと回答する教諭が 80%以上 ・職員の要望を取り入れた図書資料の整備 を行っている。
		適正な学校経営予算の編成と執行、施設・設備の効果的な管理と運用、教育環境の充実に努める。	・危険回避の観点で施設・設備の補修を行う。施設・設備に起因した事故０件 ・備品等の購入を、優先順位を明確にして的確に行っている。
キ	職員の勤務状況改善及び職員の資質向上の推進	各分掌、委員会、年次、教科等の年間を見通した業務の精選と効率化を図るとともに、職員の資質向上に努める。	・業務を精選・整理した分掌等 90%以上 ・校内研修の内容満足度 85%以上
		勤務時間管理を適正に行い、職員の完全退庁時刻を遵守する。	・各月の完全退庁時刻以前に退庁できた日の割合が 80%以上

４　監査対象期間における特色ある取組

年度	取組概要	成果及び課題
令和６年度	○　総合学科開設当時の理念の継承と推進 ・総合学科の理念を継承し、総合学科創立 30 年（令和７年）に向けて、さらなる推進を図る。 ・静岡県総合学科高等学校長会事務局として、静岡県総合学科高等学校教育研究大会と総合学科の未来を開く会議の取りまとめを行う。	・総合学科開設 29 年目を迎えたのに加え、前身の小笠農業高校時代の施設や設備も多く、施設等の老朽化が目立っている。 ・令和６年度は本校が東海事務局である。東海地区総合学科高等学校長協会総会及び第１回研究協議会は、６月に浜松市福祉交流センターにて実施した。第２回研究協議会は、11 月に駿河総合高校で実施した。 ・総合学科の未来を拓く会議は、第１回は５月に本校を会場として実施し、第２回は 10 月に伊豆総合高校で、第３回は１月に駿河総合高校で実施した。

		・静岡県総合学科高等学校教育研究大会は、８月に韮山文化センターで実施した。 ・東海地区総合学科高等学校長協会総会及び第１回研究協議会は、６月に浜松市福祉交流センターで実施した。第２回研究協議会は、11 月に静岡県立駿河総合高校で実施した。全国高等学校総合学科教育研究は、10 月に高知県民文化ホールで実施した。
	・総合学科の理念の継承及び総合学科を推進する教員の養成を図る。	・総合学科発足当時の理念を継承し、総合学科を推進する教員の養成が課題である。本校での勤務年数が少ない教員を総合学科の県大会、東海大会、全国大会に可能な限り派遣し、総合学科をより深く理解する機会を作るよう努めた。 ・７月に近隣の中学校教員を招き、本校職員３名が講師となり総合学科について説明会を行った。
	○　教育課程と教科指導 ・外国人生徒選抜で入学した１年次生に対し、現代の国語、歴史総合、数学Ⅰ、化学基礎、家庭基礎、情報Ⅰ、保健の７科目で、２年次生では論理国語、公共、数学Ａ・Ｂ、生物、保健の授業担当者が少人数で授業を行っている。	・外国人生徒の中でも日本語理解力に差があり個別対応が必要であるが、生徒の日本語理解力も高まり、成果を上げた。
	・生徒の探究的な姿勢を育むため、「総合的な探究の時間」の内容を充実させた。１年次生は、多様な角度から物事を考える力を身に付けるため「進路探究」を行い、２年次生は、自ら課題を発見し、主体的に調査・研究を行い問題解決に取り組む力を身に付けるため「地域探究」を行い、３年次生は、主体的に調査・研究を行い、成果をわかりやすく伝える力を身に付けるため「茶文化探究」を行い、３年間を通じて興味・関心を持った事象や自己の将来を主体的に考える姿勢を培う。	・「進路探究」は「産業社会と人間」と関連して、系列選択、授業科目選択を深く考える機会となっている。 ・「地域探究」は、他地域との比較を通して地元の良さを考える機会となっている。課題設定、資料収集、分析、まとめ・発表というサイクルを体系化し、３年次の茶文化探究や課題研究につながる科目になっている。 ・「茶文化探究」は栽培、歴史、文化、茶道体験など茶を多面的に捉える学習に加え、関心のある分野について探究する時間を確保し、地域の主産業をさまざまな角度から考える機会となっている。
	・問題解決能力や自発的、創造的な学習態度を育てるとともに人間としての在り方、生き方について考えさせるこ	・９月には、１年次生による「産業社会と人間」で系列の全体発表会を行い、課題解決に向けたアイデアを生み出す力を養

	とを目的に、１年次に「産業社会と人間」を、３年次の系列ごとの各教科に「課題研究」の科目を設定している。	った。 ・１月には、全校生徒参加のもと、校内課題研究発表会を行った。１・２年次生にとっては、３年次生の発表を聞き、研究や発表の方法を学ぶ良い機会となった。
	・ガイダンス（科目選択指導）担当者の人材育成に努める。	・総合学科の科目選択について、担任が十分理解して指導するために、引き続きガイダンス（科目選択指導）担当者の人材育成を進めていく。
	・キャリア形成としての科目選択指導を目指し、ガイダンス担当者と担任が連携して指導し、生徒の科目選択希望は可能な限り受け入れ、生徒の学習意欲に応える。	・従来の２人担任制の利点を生かしつつ教員減に対応するため、１クラス 25 人程度の８クラス制（正副担任）とし、担任がガイダンス担当者と連携して時間をかけてきめ細かな科目選択指導を行い、成果を上げている。２年次以降の系列や科目の変更希望がほとんどないのはその現れである。
	・修学旅行は２年次生全員で、中国・四国・近畿地方で実施する。現地での平和教育や産業等の理解のために、事前研修を充実させる。	・複数のコース別に分かれ、現地の産業や歴史、平和学習を通して様々な知識や課題を学ぶとともに仲間を尊重する態度を身に付けた。
	・全ての授業において「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業改善を進める。授業方法として ICT 活用について情報を共有する。	・１人１台端末としてクロームブックを採用し、誰一人取り残さない教育の実現を目指し全校でグーグルクラスルームを導入した。また、クラスルームで授業の連絡事項や課題配信などの取組を行った。情報管理室を中心に教員のスキルアップを図った。
	○　生徒指導 ・始業時刻は午前８時 35 分であるが８時 30 分までに教室に入り、朝読書をするように指導する。また、当番制で教員による昇降口指導を行う。	・ ほぼ全員が８時 30 分には教室に入室して、自主的に朝読書を行っており、遅刻者はほとんどいない。昇降口指導では生徒へ声を掛ける機会にもなっている。
	・生徒指導提要の改定に合わせた頭髪や服装の指導を定期的に行う。	・マナー重視の指導となり、生徒のマナー意識の向上によって、頭髪・服装が全体的に整っている。
	○　進路指導 ・１年次は、前期科目として「産業社会と人間」と「進路探究」を集中履修させ、学びたい系列や選択したい	・設置している全系列の体験授業を通じて、生徒は自己の適性を深く考えている。７つの系列の希望人数も極端な偏りはな

	科目をじっくり考えさせる。後期からは設置系列の科目を履修させるとともに、大学、専門学校、企業、本校卒業生らを講師に招き、生徒の進路意識の高揚を図る。	く、適切な指導がなされている。また、外部講師の講話を聞くことにより、生徒の進路意識が高まった。
	・１年次の「産業社会と人間」や２年次の総合的な探究の時間「地域探究」において、菊川市と提携し、地域課題解決をテーマとして、課題解決型学習を行う。	・「産業社会と人間」で行う「大人を巻き込む企画作り」において、市内で活躍する方を招いて、地域の課題解決のヒントになる話をしていただいたり、「地域探究」において市の職員に取材したりするなど、市の協力を得て学習を進めている。
	・１年次の総合的な探究の時間「進路探究」を「産業社会と人間」と関連付けた内容で実施する。	・１年次生の進路学習への動機付けと担任の生徒理解の両面で効果を上げている。
	・２年次生の希望者に対して 12 月から小論文指導を実施する。３年次生の４月末に指導教員の割振を行い早期の個別指導を行う。	・進学希望者、就職希望者ともに生徒の取組は良好である。 ・小論文指導は、外部模試を織り交ぜ、学習の成果を客観的に把握する機会を設けている。
	・８月末に PTA 進路対策委員の協力による、就職のための模擬面接試験を実施する。	・校外の方との面接は緊張度も増し、個々の生徒の課題が明確になることから、模擬面接の効果は大きいと考えている。
	・２年次生の希望者を対象に、夏休みを利用してインターンシップを行う。	・２年次生の就職希望者を対象にインターシップを行った。受入企業へのアンケート結果では、生徒の取り組みを高く評価する記述が多かった。
	・ベネッセのスタディサポートを「高校生のための学びの基礎診断」として実施する。	・マーク式と記述式の問題により測定した基礎学力とアンケート調査により明らかにした学習力をもとに、授業改善や各生徒の学習改善に資するものになるよう検討を続ける。
	○　総合学科の広報 ・７，８月に中学生と対象とした部活動見学会・学校説明会を実施し６月、11 月にオープンスクールを実施する。	・６月に第１回のオープンスクールを実施した。申込のデジタル化や実施内容を大幅に変更し、職員の負担も減り、中学生・保護者も参加しやすい内容となった。第２回は 11 月に実施した。 ・昨年度好評だった部活動見学会と学校説明会を７月 29 日から８月２日までの５日間実施した。

	・学校ホームページの更新を頻繁に行い、新たにインスタグラムも公開し、学校行事等だけでなく総合学科についての情報を発信するよう努めている。	・週に４～５回のペースでホームページの情報の更新とインスタグラムで総合学科ならではの授業や行事、部活動の様子を中心に学校生活を紹介した。
	○　地域との連携 ・菊川市とフレンドシップ協定を締結している。菊川市と本校が包括的な連携のもと、高校生の発想力や行動力を生かし、相互に資源を有効に活用することにより、活力あふれる地域社会の創出に努め、地域の発展及び人材の育成に寄与することを目的としている。	・１年次の「産業社会と人間」については進路指導の欄を参照。 ・令和２年度から、菊川市の市街地にぎわいづくりの一環として、市役所東館にて「小さな収穫祭」を行っている。本校生徒が、地域の農家や農業法人が提供した農産物等を販売し、地域の方々との交流の場になっている。準備にあたっては、農業科学系列、ビジネス情報系列、情報技術系列、健康系列（福祉系）、生物生産部の生徒らが授業で学んだ知識や技能を生かして積極的に関わっており、市と本校の双方にとって有益な取組となっている。令和６年度は４回（６月 29 日、９月 21 日、11 月３日、12 月７日）開催した。
	・農業の授業「総合実習」で、近隣の小学校や保育園に出向き、児童、園児と一緒に菜園やプランターで野菜作りを行う。また、近隣の小学生や保育園の児童、園児を本校に招き、園児と一緒に本校農場で栽培したサツマイモや大根等の収穫体験を行う。	・小学生や園児に、農業の大切さを伝えるとともに、命の大切さや相手を思いやる気持ちを育んでいる。また、本校生徒のキャリア教育の一環としての成果を上げている。
	・教科「福祉」において、地元の福祉施設や児童館、社会福祉協議会との連携を図る。	・９月に１年次生の生徒を対象に、菊川市内の保育園や子ども園（７園に分かれて）において実習を行った。 ・健康系列（福祉系）の生徒らが「小さな収穫祭」において市内の障害者施設と協力して障害者が作った食品等の販売を行った。 ・市内の障害者施設と連携し、「ユニバーサルデザインフード」の活動を行い、地域に貢献した。
	○その他 ・「国際人としての教養を身に付けるとともに、人材の育成を図る」ことを目的に海外派遣事業を行っている。	・海外派遣事業については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から事業を長期間中止している。その代わりとして、菊

	海外研修を希望する生徒が自らプログラムを作成し、面接・作文等の校内選考で研修者を決定する。研修者には同窓会より研修費用を補助する。 ・生徒相談室が主催し、教育相談連絡会を年３回行う。	川市市民協働センター主催の外国人の子どもたちへの日本語サポートに参加し、地域において国際交流を行った。 ・心配な生徒や配慮が必要な生徒等の情報が共有でき、教育的効果は高い。
令和７年度	○　総合学科開設当時の理念の継承と推進 ・総合学科の理念を継承し、総合学科創立 30 年（令和７年）を迎え、さらなる推進を図る。 ・静岡県総合学科高等学校長会事務局として、静岡県総合学科高等学校教育研究大会と総合学科の未来を開く会議の取りまとめを行う。 ・総合学科の理念の継承及び総合学科を推進する教員の養成を図る。 ○　教育課程と教科指導 ・外国人生徒選抜で入学した１年次生に対し、現代の国語、歴史総合、数学Ⅰ、化学基礎、家庭基礎、情報Ⅰ、	・総合学科開設 30 年目を迎えたのに加え、前身の小笠農業高校時代の施設や設備も多く、施設等の老朽化が目立っている。 ・令和７年度は昨年度に引き続き、本校が東海事務局である。東海地区総合学科高等学校長協会総会及び第１回研究協議会は、６月に浜松市福祉交流センターにて実施した。第２回研究協議会は、11 月に本校で実施予定である。 ・総合学科の未来を開く会議について、第１回は５月に本校を会場として実施し、第２回は 10 月に浜松大平台高校で、第３回は１月に駿河総合高校で実施予定である。 ・静岡県総合学科高等学校教育研究大会は、８月に浜松市可美総合センターにて実施した。 ・全国高等学校総合学科教育研究大会は、11 月 13 日、11 月 14 日に山口県山口市にて実施予定である。 ・総合学科発足当時の理念を継承し、総合学科を推進する教員の養成が課題である。本校での勤務年数が少ない教員を総合学科の県大会、東海大会、全国大会に可能な限り派遣し、総合学科をより深く理解する機会を作るよう努めている。 ・７月に近隣の中学校教員を招き、本校職員２名が講師となり総合学科について説明会を行った。 ・外国人生徒の中でも日本語理解力に差があり個別対応が必要であるが、生徒の日本語理解力も高まり、成果を上げている。

	保健の７科目で、２年次生では論理国語、公共、数学A・B、生物、保健の授業担当者が少人数で授業を行っている。	
	・生徒の探究的な姿勢を育むため、「総合的な探究の時間」の内容を充実させた。１年次生は、多様な角度から物事を考える力を身に付けるため「進路探究」を行い、２年次生は、自ら課題を発見し、主体的に調査・研究を行い問題解決に取り組む力を身に付けるため「地域探究」を行い、３年次生は、主体的に調査・研究を行い、成果をわかりやすく伝える力を身に付けるため「茶文化探究」を行い、３年間を通じて興味・関心を持った事象や自己の将来を主体的に考える姿勢を培う。	・「進路探究」は「産業社会と人間」と関連して、系列選択、授業科目選択を深く考える機会となっている。 ・「地域探究」は、他地域との比較を通して地元の良さを考える機会となっている。課題設定、資料収集、分析、まとめ・発表というサイクルを体系化し、３年次の茶文化探究や課題研究につながる科目になっている。 ・「茶文化探究」は栽培、歴史、文化、茶道体験など茶を多面的に捉える学習に加え、関心のある分野について探究する時間を確保し、地域の主産業をさまざまな角度から考える機会となっている。
	・問題解決能力や自発的、創造的な学習態度を育てるとともに人間としての在り方、生き方について考えさせることを目的に、１年次に「産業社会と人間」を、３年次の系列ごとの各教科に「課題研究」の科目を設定している。	・９月には、１年次生による「産業社会と人間」で系列の全体発表会を行い、課題解決に向けアイデアを生み出す力を養った。 ・１月末には、全校生徒参加のもと、校内課題研究発表会を行う予定であり、１・２年次生にとっては３年次生の発表を聞き、研究や発表の方法を学ぶ良い機会となっている。
	・ガイダンス（科目選択指導）担当者の人材育成に努める。	・総合学科の科目選択について、担任が十分理解して指導するために、引き続きガイダンス（科目選択指導）担当者の人材育成を進めていく。
	・キャリア形成としての科目選択指導を目指し、ガイダンス担当者と担任が連携して指導し、生徒の科目選択希望は可能な限り受け入れ、生徒の学習意欲に応える。	・従来の２人担任制の利点を生かしつつ教員減に対応するため、１クラス25人程度の８クラス制（正副担任）とし、担任がガイダンス担当者と連携して時間をかけてきめ細かな科目選択指導を行い、成果を上げている。２年次以降の系列や科目の変更希望がほとんどないのはその現れである。
	・修学旅行は２年次生全員で南九州・関西地方を予定している。 現地での平和教育や産業等の理解のために、事前研修を充実させる。	・複数のコース別に分かれ、現地の産業や歴史、平和学習を通して様々な知識や課題を学ぶとともに仲間を尊重する態度を身に付ける。

	・全ての授業において「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業改善を進める。授業方法として ICT 活用について情報を共有する。	・１人１台端末としてクロームブックを採用し、誰一人取り残さない教育の実現を目指し全校でグーグルクラスルームを導入した。またクラスルームで授業の連絡事項や課題配信などの取組を行った。情報管理室を中心に教員の ICT 活用のスキルアップを図る。
	○　生徒指導 ・始業時刻は午前８時 35 分であるが８時 30 分までに教室に入り、朝読書習慣が身についている。 ・毎日、教員による昇降口指導を実施している。	・不注意による遅刻者もなく、ほぼ全員が８時 30 分には教室に入室して自主的に朝読書を行っている。 ・朝の昇降口指導が生徒とのコミュニケーションとなり、生徒の様子を伺える機会にもなっている。
	・生徒指導提要の改定に合わせた頭髪や服装の指導を定期的に行う。	・マナー重視の指導となり、生徒のマナー意識の向上によって、頭髪・服装が全体的に整っている。
	○　進路指導 ・１年次は、前期科目として「産業社会と人間」と「進路探究」を集中履修させ、学びたい系列や選択したい科目をじっくり考えさせる。後期からは設置系列の科目を履修させるとともに、大学、専門学校、企業、本校卒業生らを講師に招き、生徒の進路意識の高揚を図る。	・設置している全系列の体験授業を通じて、生徒は自己の適性を深く考えている。７つの系列の希望人数も極端な偏りはなく、適切な指導がなされている。また、外部講師の講話を聞くことにより、生徒の進路意識が高まった。
	・１年次の「産業社会と人間」や２年次の総合的な探究の時間「地域探究」において、菊川市と提携し、地域課題解決をテーマとして、課題解決型学習を行う。	・「産業社会と人間」で行う「大人を巻き込む企画作り」において、市内で活躍する方を招いて、地域の課題解決のヒントになる話をしていただいたり、「地域探究」において市の職員に取材したりするなど、市の協力を得て学習を進めている。
	・１年次の総合的な探究の時間「進路探究」を「産業社会と人間」と関連付けた内容で実施する。	・１年次生の進路学習への動機付けと担任の生徒理解の両面で効果を上げている。
	・２年次生の希望者に対して 12 月から小論文指導を実施する。３年次生の４月末に指導教員の割振を行い早期の個別指導を行う。	・進学希望者、就職希望者とも生徒の取組は良好である。 ・小論文指導は、外部模試を織り交ぜ、学習の成果を客観的に把握する機会を設けている。
	・８月末に、PTA 進路対策委員の協力による就職のための模擬面接試験を実施する。	・校外の方との面接は緊張度も増し、個々の生徒の課題が明確になることから、模擬面接の効果は大きいと考えている。

	・２年次生の就職希望者を対象に、夏休みを利用してインターンシップを行う。	・２年次生の就職希望者を対象にインターンシップを行った。受入企業へのアンケート結果では、生徒の取り組みを高く評価する記述が多かった。
	・ベネッセのスタディサポートを実施する。	・マーク式と記述式の問題により測定した基礎学力とアンケート調査により明らかにした学習力をもとに、授業改善や各生徒の学習改善に資するものになるよう検討を続ける。
	○　総合学科の広報 ・７、８月に中学生を対象とした部活動見学会・学校説明会を実施し、６月、11 月にオープンスクールを実施する。	・６月に第１回のオープンスクールを実施した。申込やアンケートのデジタル化や実施内容を大幅に変更し、職員の負担も減り、中学生・保護者も参加しやすい内容となった。第２回は 11 月に実施する。 ・昨年度好評だった部活動見学会と学校説明会を７月 30 日から８月３日までの５日間で実施した。
	・学校ホームページやインスタグラムの更新を頻繁に行い、学校行事等だけでなく、日常の小笠高生の様子や総合学科についての情報を発信するよう努めている。	・週に４～５回のペースでホームページやインスタグラムで総合学科ならではの授業や行事、部活動の様子を中心に学校生活を紹介している。
	○　地域との連携 ・菊川市とフレンドシップ協定を締結している。菊川市と本校が包括的な連携のもと、高校生の発想力や行動力を生かし、相互に資源を有効に活用することにより、活力あふれる地域社会の創出に努め、地域の発展及び人材の育成に寄与することを目的としている。	・令和２年度から、菊川市の市街地にぎわいづくりの一環として、市役所東館にて「小さな収穫祭」を行っている。本校生徒が、地域の農家や農業法人が提供した農産物等を販売し、地域の方々との交流の場になっている。準備にあたっては、農業科学系列、ビジネス情報系列、情報技術系列、健康系列（福祉系）、生物生産部の生徒らが授業等で学んだ知識や技能を生かして積極的に関わっており、市と本校の双方にとって有益な取組となっている。今年度は４回（６月 29 日、９月 21 日、11 月３日、12 月７日）の開催予定である。
	・農業の授業「総合実習」で、近隣の小学校や保育園に出向き、児童、園児と一緒に菜園やプランターで野菜作りを行う。また、近隣の小学生や保育園の児童、園児を本校に招き、園児と一緒に本校農場で栽培したサツマイモや大根等の収穫体験を行	・小学生や園児に、農業の大切さを伝えるとともに、命の大切さや相手を思いやる気持ちを育んでいる。また、本校生徒のキャリア教育の一環としての成果を上げている。

	う。 ・教科「福祉」において、地元の福祉施設や児童館、社会福祉協議会との連携を図る。	・９月に１年次生の生徒を対象に、菊川市内の保育園や子ども園（８園に分かれて）において実習を行う予定である。 ・健康系列（福祉系）の生徒らが「小さな収穫祭」において市内の障害者施設と協力して障害者が作った食品等の販売を行う予定である。 ・市内の障害者施設と連携し、「障害者アート」活動を行っている。
	○その他 ・「国際人としての教養を身に付けるとともに、人材の育成を図る」ことを目的に海外派遣事業を行っている。海外研修を希望する生徒が自らプログラムを作成し、面接・作文等の校内選考で研修者を決定する。研修者には同窓会より研修費用を補助する。	・海外派遣事業については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から事業を長期間中止している。その代わりとして、菊川市市民協働センター主催の外国人の子どもたちへの日本語サポートに参加し、地域において国際交流を行っている。
	・生徒相談室が主催し、教育相談連絡会を年３回行う。	・心配な生徒、配慮を必要な生徒等の情報が共有でき、教育的効果は高い。

５　教職員について

(1) 令和６年度末異動状況　　（単位：人）

区分＼職名		校長	教諭	主任	主査	本務職員計	教諭（任）	教諭（臨）	臨時的任用職員計	非常勤講師	非常勤嘱託員	生産物管理嘱託員	会計年度任用職員計	合計
転　出		1	6	1		8			0				0	8
退　職			4			4		1	1	7		1	8	13
転　入		1	6		1	8	2	3	5				0	13
新　任			1			1			0	2		1	3	4
再任用	退職					0			0				0	0
	任用		3			3			0				0	3
差引増減		0	0	-1	1	0	2	2	4	-5	0	0	-5	-1

(2) 現員数　　（令和７年８月 31 日現在）（単位：人）

職名／区分	本務職員													本務計	臨時・非常勤職員							合計
	教育職員								行政職員													
	校長	副校長	教頭	教諭	養護教諭	主任実習助手	実習助手	小計	事務長	主査	主任	主事	小計		教諭（任期付）	教諭（臨時）	外国語指導講師	非常勤講師	非常勤労務職員	生産物管理嘱託員	臨時計	
	1	1	1	48	1	1	2	55	1	2	1	1	5	60	2	3	1	9	5	1	21	81

(3) 健康管理について

令和６・７年度

職員の健康管理には常に注意するとともに、生活習慣病検診・人間ドック・指定年齢検診を必ず受けるよう指導している。その結果は概ね良好であるが、異常のあった者に対しては早急に精密検査を受けさせている。令和６年度は、治療を要する者が出た場合には 12 月末までに 100%受検を目指し、１月末に完了するよう指導し、早期受診を促した。

また、毎月「職員安全衛生委員会」を開催し、職場の環境をより過ごしやすいにするために定期的に話し合いを持ち、環境整備を進めている。また、超過勤務の職員を対象に、健康管理医による面接指導を実施している。

日頃から管理職が職員への声掛けに努め、人事面談の際には、心身の健康について心配りをするとともに、企画運営委員会や職員会議では校長がメンタルヘルスやワーク・ライフ・バランスへの配慮等について話をしている。「ストレスチェック検査」に関しては、令和６年度、７年度とも全教職員に呼びかけ、実施率は 100%だった。

(4) 教職員の研修について

校内研修は、年２～３回実施している。また、年次別研修対象者の研修を核として、授業改善のための資質の向上に努めている。

年度	項　目	内　　容
令和６年度	目　　的	授業における ICT 機器の効果的な活用 観点別学習状況の評価、授業改善のための学習評価
	取組内容	○校内研修Ⅰ　ICT の活用について　（６月） ・ogasa-h の管理の変更に伴い、各分掌で管理や引継ぎの仕方を再確認した。 ・分掌で使用する google フォームの作り方を共有した。 ○指導主事訪問　観点別学習評価について（６月） ・総合教育センター　高校教育課指導第１・２班から講師を招き研修を実施した。 ・観点別学習評価について、グループワークを行い、共通理解を深めた。 ○校内研修Ⅱ　授業改善のための ICT 活用（９月） ・授業改善のための ICT 活用について県総合教育センター教育主査を招き、研修を実践した。 ・特に義務教育における ICT の実践例を中心に理解した。 ○研修課主催の公開授業参観（人事評価制度での授業参観） ○年次別研修対象者による校内研修 ・「総合学科の諸課題」について協議等を行った。
	成果と課題	①　ICTの活用について、各教科や分掌で効果的に使用させる方法を共有することができた。 ②　観点別学習状況の評価、授業改善のための学習評価（６月） 県総合教育センター教育主査から、教科の具体的内容に沿って学習評価の在り方を学ぶことができた。 ③　年次別研修対象者による校内研修 「総合学科の諸課題」について研修を行い、今後取り組みたい事を各自発表し、グループごとに協議を行った。
令和７年度	目　　的	近年の入試の状況について理解し、進路指導に役立てる。 発達支持的な支援の方法について理解を深める。
	取組内容	①　総合型選抜や学校推薦型選抜の入試方法について（6 月） 河合塾から講師を招いて近年の入試の状況について理解する。 ②　小論文指導や志望動機の書き方について（9 月） 第一学習社から講師を招いて研修を実施する予定。 ③　指導主事訪問　発達支持的な支援について（11 月） ・総合教育センター　高校教育課指導第から講師を招いて研修を実施する予定。 ④　公開授業参観を実施（人事評価制度での授業参観）（11 月） ⑤　年次別研修対象者による校内研修 チーム研修を２回実施し、ホームルーム経営、進路指導を中心に研究協議を行った。

	成果と課題	・総合型選抜や学校推薦型選抜の入試方法について（6 月） 河合塾から講師を招いて近年の入試の状況について全職員で理解を深めることができた。 ・年次別研修対象者による校内研修について　(5月) ホームルーム経営、進路指導を中心に研究協議を行い、今後の生徒指導、進路指導に活かそうとする姿勢が見られた。

6　防災対策について

年度	項　目	内　　容
令和6年度	目　　標	安全で快適な学校生活を確保するためにも、防災意識の更なる高揚を図るとともに、危機管理マニュアルに示した、有事の際の行動様式の周知徹底を図る。また、災害時の対応力・行動力を身に付ける。
	取組内容	①「危険等発生時対処要領　危機管理マニュアル」を全職員が理解し、災害時に迅速な対応ができるようにする。 ② 消防署の立ち入り調査および県危機管理課からの学校調査への対応。
	成果と課題	① 完成した危険等発生時対処要領を全教員へ周知するとともに、共通理解を図った。 ② ５月に菊川文化会館アエルで学校、自治会、菊川市の合同の防災教育に参加した。
令和7年度	目　　標	安全で快適な学校生活を確保するためにも、防災意識の更なる高揚を図るとともに、危機管理マニュアルに示した、有事の際の行動様式の周知徹底を図る。また、災害時の対応力・行動力を身に付ける。
	取組内容	①「危険等発生時対処要領　危機管理マニュアル」を全職員が理解し、災害時に迅速な対応ができるようにする。 ② 消防署の立ち入り調査および県危機管理課からの学校調査への対応。
	成果と課題	① 完成した危険等発生時対処要領を全教員へ配布し共通理解を図ったが、今後は各担当場所での読み合わせを予定している。 ② ５月に学校、自治会、菊川市合同防災教育に参加。 ③ 若干使用されていない施設があり、今後の使用方法を模索する

7　学校開放について

社会教育の普及・振興のため、地域住民等の要請に基づき体育館等の学校施設の開放を実施している。

（1）令和６年度施設開放利用状況

施設名	延利用日数	延利用人数	主な利用種目・団体	利用者負担金
体　育　館	248 日	3,007 人	バスケットボール、柔道、剣道、フーバ（地域５団体）	(電気料金) 83,711 円
グラウンド	60 日	1,470 人	サッカー・野球（地域２団体）	
弓　道　場	４日	120 人	弓道（地域１団体）	
教　　室	４日	171 人	模試（生徒）	
合　　計	316 日	4,768 人		

(2)令和７年度施設開放利用状況　（令和７年８月 31 日現在）

施設名	延利用日数	延利用人数	主な利用種目・団体	利用者負担金
体　育　館	105 日	1,421 人	バスケットボール、柔道、剣道、バレー、フーバ（地域６団体）	(電気料金) 30,157 円
グラウンド	27 日	472 人	サッカー（地域１団体）	
弓　道　場	２日	60 人	弓道（地域１団体）	
合　　計	134 日	1,953 人		

□□□□□

事務執行の根拠法令調

項　　目	根　拠　法　令
1　学校教育に関すること	教育基本法（第１条、第２条） 学校教育法（第１条、第２条、第３条、第50条、第51条、第52条、第60条） 学校教育法施行規則 学校保健安全法（第５条） 静岡県立学校設置条例 静岡県立高等学校学則 高等学校学習指導要領 理科教育振興法（第11条） 理科教育振興法施行令 産業教育振興法（第18条） 産業教育振興法施行令
2　学校の管理・運営に関すること	学校教育法（第137条） 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第33条） 静岡県立学校管理規則 教育公務員特例法（第21条、第22条） いじめ防止対策推進法（第18条） 学校保健安全法（第15条、第27条） 静岡県立学校職員安全衛生管理規程 社会教育法（第43条、第45条、第47条） 静岡県立学校の施設等の開放に関する要綱 学校図書館法（第３条、第４条） 静岡県教育委員会処務規程 静岡県立学校の授業料等の徴収に関する条例 静岡県立学校授業料等徴収規則 高等学校等就学支援金の支給に関する法律 高等学校等就学支援金の支給に関する法律施行令 高等学校等就学支援金の支給に関する法律施行規則 高等学校就学支援金事務処理要領 静岡県公立高等学校等就学支援金事務処理要領 静岡県手数料徴収条例 静岡県高等学校等教育資金及び高等学校等奨学金貸与規則 独立行政法人日本スポーツ振興センター法（第16条、第17条）

□□□□□

学 校 施 設 の 概 要

1　面積及び所有区分

（令和７年８月31日現在）

区分		面積 ㎡	所有内訳 県有 ㎡	国有 ㎡	市町有 ㎡	後援会有 ㎡	民有 ㎡	摘要
学校敷地		122,101.89	121,925.89	—	—	176.00	—	
内訳	校舎敷地	55,406.35	55,406.35	—	—	—	—	
	運動場敷地	39,524.58	39,524.58	—	—	—	—	
	その他の敷地	27,170.96	26,994.96	—	—	176.00	—	
実習地		53,396.81	53,396.81	—	—	—	—	
内訳	畑	6,729.14	6,729.14	—	—	—	—	
	茶園	35,134.65	35,134.65	—	—	—	—	
	果樹園	5,129.17	5,129.17	—	—	—	—	
	温室敷地	6,403.85	6,403.85	—	—	—	—	
校舎		建 3,397.05	建 3,397.05	—	—	—	—	
		延 9,859.57	延 9,859.57					
体育館		建 893.04	建 893.04	—	—	—	—	
		延 2,087.89	延 2,087.89					
武道場		建 579.35	建 579.35	—	—	—	—	
		延 579.35	延 579.35					
その他の建物		建 5,625.18	建 5,625.18	—	—	—	—	
		延 5,883.99	延 5,883.99					
寄宿舎		建	建	—	—	—	—	
		延	延					
生活館		建 244.62	—	—	—	—	建 244.62	同窓会有
		延 416.34					延 416.34	
プール		１個	１個	—	—	—	—	25m×16m（７コース）

2　配置･規模等

⑴ 校舎等の配置図

⑵　学校施設の規模等（法面･演習林等を除く）

区　　分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当　　校	121,925.89 ㎡	9,859.57 ㎡	39,524.58 ㎡
県　平　均	45,574.48 ㎡	9,782.41 ㎡	22,506.84 ㎡

□□□□□

在　籍　生　徒　調

（令和7年８月31日現在）

学年	学科別 区分		総　合　学　科			
			定　員	男子	女子	計
１年	入　学　者		200	85	118	203
		増　加		0	0	0
		減　少		0	0	0
	現　　在			85	118	203
２年	入　学　者		200	88	122	210
		増　加		0	0	0
		減　少		2	0	2
	２年時当初			86	122	208
		増　加		0	0	0
		減　少		1	0	1
	現　　在			85	122	207
３年	入　学　者		200	88	102	190
		増　加		(1)	0	(1)
		減　少		(1)	1	1(1)
	２年時当初			88	101	189
		増　加		0	0	0
		減　少		1	3	4
	３年時当初			87	98	185
		増　加		0	0	0
		減　少		0	0	0
	現　　在			87	98	185
合　　計			600	257	338	595

□□□□□

入学志願者及び入学者数調

区　　分		令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
学　　科　　別		総合学科	総合学科	総合学科	総合学科	総合学科
生徒定員　(A)		200	200	200	200	200
募集者数　(B)		200	200	200	200	200
志願者数	男	76（1）	93（）	88（）	91（）	85()
	女	104（）	119（）	100（2）	126（）	121()
	計(C)	180（1）	212（）	188（2）	217（）	206()
受検者数	男	76（1）	93（）	88（）	91（）	85()
	女	104（）	119（）	100（2）	125（）	119()
	計(D)	180（1）	212（）	188（2）	216（）	204()
合格者数	男	74（1）	93（）	88（）	88（）	85()
	女	104（）	115（）	100（2）	122（）	118()
	計(E)	178（1）	208（）	188（2）	210（）	203()
志願倍率　(C)/(B)		0.90	1.06	0.94	1.08	1.03
受検倍率　(D)/(B)		0.90	1.06	0.94	1.08	1.02
入学者数	男	75	93	88	88	85
	女	104	115	102	122	118
	計　(F)	179	208	190	210	203
充足率　(F)/(A)		0.90	1.04	0.95	1.05	1.01

□□□□□

卒 業 生 の 動 向 調

1　進路状況

学　科　別			総　　合　　学　　科		
年　　度			令和４年度	令和５年度	令和6年度
卒　業　生　徒　数			194	171	201
内訳	（進学志願者）		(127)	(114)	(144)
	進学者	大　学　・　短　大	59	59	59
		専修・各種学校等	68	55	85
		小　　計	127	114	144
	就　　職　　者		63	52	57
	自　　営　　者		0	0	0
	進　学　準　備　者		2	0	0
	そ　　の　　他		2	5	0
合　　計			194	171	201

2　求人状況（全日制のみ）

区　　分	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度8月末現在
就職希望者	61	50	52	61
求 人 数	312	367	403	435
求人倍率	5.11	7.34	7.75	7.13

３　資格取得状況　（令和6年度）

学　科　別	総 合 学 科		
卒業生徒数	201		
資格の取得状況（種類別）	日本漢字能力検定	準２級	26
		３級	118
	実用英語技能検定	準１級	3
		２級	1
		準２級	2
		３級	4
	全家　被服製作技術検定	２級（和服）	0
		３級	0
		４級	46
	全家　保育技術検定	２級	10
		２級（造形）	11
		２級（音楽・リズム）	13
		２級（言語）	13
		2級（家庭看護）	10
		３級	19
		3級（音楽・リズム）	3
		3級（家庭看護）	7
		3級（言語）	6
		３級（造形）	3
	日本農業技術検定	２級	3
		３級	51
	トレース技能検定	３級	38
	全工　基礎製図検定	.	23
	全工　計算技術検定	３級	23
		４級	20
	全工　情報技術検定	１級	2
		１級（種目Ⅰハードウェア）	2
		１級（種目Ⅱプログラミング）	1
		２級	24
		３級	28
	全商　簿記実務検定	１級	5
		１級（会計）	1
		１級（原価計算）	10
		２級	16
		３級	36
	日検　情報処理検定表計算	１級	4
		準１級	21
		２級	24
		準２級	10
	日検　プレゼンテーション作成検定	１級	25
		２級	7
		３級	0
	日検　情報処理検定データベース	１級	2
		２級	7
		３級	4
	日検　日本語ワープロ検定	１級	3
		準１級	4
		２級	22
		準２級	19
	日検　文書デザイン検定	２級	1
		３級	17
	日検　文章入力スピード認定日本語	１級	1
		準１級	2

	毛筆書写技能検定	準２級	4
		３級	8
	硬筆書写技能検定	２級	1
		３級	11
合　計			775

□□□□□

生徒の状況

1　生徒の出身地域及び通学方法

(1) 出身地　（令和７年８月31日現在）（単位：人）

市町名	菊川市	掛川市	御前崎市	牧之原市	島田市	その他	合　計
生徒数	248	218	83	19	16	11	595
構成比％	41.7%	36.6%	13.9	3.2%	2.7%	1.9%	100%

(2) 通学方法　（令和７年８月31日現在）（単位：人）

区　分	自転車	交通機関	徒歩	原付自転車	合　計
生徒数	309	265	21	0	595
構成比％	51.9%	44.6%	3.5%	０％	100%

2　部（クラブ）の加入状況

（令和７年８月31日現在）（単位：人）

区　　分		運動部	文化部	未加入者	計
部(ｸﾗﾌﾞ) 数		12	10		22
男子	１　年	76	9	0	85
	２　年	73	6	6	85
	３　年	69	13	5	87
	計　（A）	218	28	11	257
	構成比	84.8%	10.9%	4.3%	100%
女子	１　年	66	52	0	118
	２　年	39	80	3	122
	３　年	34	58	6	98
	計　（B）	139	190	9	338
	構成比	41.1%	56.2%	2.7%	100%
合計	（A＋B）	357	218	20	595
	構成比	60.0%	36.6%	3.4%	100%

□□□□□

授業料収納状況調

（令和６年度）

期別	月別	調定の状況 1年 人員	1年 調定額	2年 人員	2年 調定額	3年 人員	3年 調定額	計 人員	計 調定額	収納の状況 納期内収納額	収納率	納期後収納額	収入未済額	異動者等の状況
		人	円	人	円	人	円	人	円	円	%	円	円	
前期	4													A．期首収納権利発生額＝4,266,900円 59人×9,900円×6月＝3,504、600円 25人×9,900円×3月＝　742,500円 １人×9,900円×2月＝　19,800円 B．収納権利増減額＝△89,100円 ＜内訳＞ 就学支援金認定 1人×9,900円×3月＝△29,700円 2人×9,900円×3月＝△59,400円 C．収納必要額Ａ＋Ｂ＝4,177,800円
	5													
	6													
	7													
	8													
	9													
	10	32	1,475,100	34	1,811,700	19	980,100	85	4,266,900	4,177,800	97.9	0	89,100	
	11	△2	△59,400	△1	△29,700			△3	△89,100	△59,400		59,400	△29,700	
	計	30	1,415,700	33	1,782,000	19	980,100	82	4,177,800	4,118,400	98.6	59,400	0	
後期	10													A．期首収納権利発生額＝4,336,200円 73人×9,900円×6月＝4,336200円 B．収納権利増減額＝△19,800円 ＜内訳＞ 1月20日付転学 1人×9,900円×2月＝△19,800円 C 収納必要額A+B＝4,316,400円
	11													
	12													
	1	27	1,603,800	29	1,722,600	17	1,009,800	73	4,336,200	4,217,400	97.3	0	118,800	
	2	△1	△19,800					△1	△19,800	△19,800		118,800	0	
	3													
	計	26	1,584,000	29	1,772,600	17	1,009,800	72	4,316,400	4,197,600	97.2	0	0	
合計		56	2,999,700	62	3,554,600	36	1,989,900	154	8,494,200	8,316,000	97.9	178,200	0	D.収納必要額＝8,494,200円

授業料収納状況調

（令和７年）（令和７年８月31日現在）

期別	月別	調定の状況 1年 人員	1年 調定額	2年 人員	2年 調定額	3年 人員	3年 調定額	4年 人員	4年 調定額	計 人員	計 調定額	収納の状況 納期内収納額	収納率	納期後収納額	収入未済額	異動者等の状況
		人	円	人	円	人	円	人	円	人	円	円	%	円	円	
前期	4															A．期首収納権利発生額＝０円 B．収納権利増減額＝0円 ＜内訳＞ なし C．収納必要額Ａ＋Ｂ＝0円
	5															
	6															
	7															
	8															
	9															
	10															
	計															
後期	10															
	11															
	12															
	1															
	2															
	3															
	計															
合計																D．収納必要額＝0円

□□□□□

県収入証紙により徴収した使用料及び手数料調

区　　分	令和６年度	令和７年度 （令和７年８月31日現在）
	件　　数	件　　数
高等学校入学検定料	203	0

□□□□□

預　　金　　調

（令和７年８月31日現在）

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残高（円）	摘　　要
静岡銀行菊川支店	無利息型 普通預金	0034379	静岡県立小笠高等学校 資金前渡者 校長　小木　充	0	給与振込用
静岡銀行菊川支店	無利息型 普通預金	0355693	(自振口)静岡県立小笠 高等学校資金前渡者 校長　小木　充	0	公共料金等口座 振替用
残　高　合　計				0	

□□□□□

郵　券　等　受　払　調

（令和７年８月 31 日現在）

(単位:枚、円)

区分	種類	令和６年度						令和７年度								摘要
		繰越		受入		払出		繰越		受入		払出		差引現在高		
		枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	
郵券	1円券	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	文書送付
	20円券	0	0	1	20	1	20	0	0	0	0	0	0	0	0	文書送付
	63円券	1	63	0	0	1	63	0	0	0	0	0	0	0	0	文書送付
	84円券	1	84	9	756	10	840	0	0	0	0	0	0	0	0	文書送付
計			147		777		924		0		0		0		0	

□□□□□

材 料 品 受 払 調

(令和7年8月31日現在)

品名＼区分	前年度						本年度								摘要
	繰越		受入		払出		繰越		受入		払出		差引現在高		
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	
生葉	0	0	0	0	0	0	0	0	kg 213	円 59,580	kg 213	円 59,580	0	0	
計	0	0	0	0	0	0	0	0	kg 213	円 59,580	kg 213	円 59,580	0	0	

□□□□□

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

節　名	会 計	款	項	目	執行済額 (円) 令和5年度	令和6年度	左のうち、令和5年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費		0	
	一般会計	教育費	高等学校費	高等学校管理費		2,113,177	
	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		231,000	
計					2,848,433	2,344,177	0
(14) 工事請負費	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費		8,800,000	
計					2,453,000	8,800,000	0
(16) 公有財産購入費							
計					0	0	0
(17) 備品購入費	一般会計	教育費	高等学校費	高等学校管理費			
	一般会計	教育費	学校教育費	高校教育費			
計					2,503,121	0	0
(18) 負担金、補助及び交付金	一般会計	教育費	高等学校費	高等学校管理費		62,909,250	
計					59,391,050	62,909,250	0
(21) 補償、補填及び賠償金							
計					0	0	0

□□□□□

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和7年8月31日現在)

節　名	会 計	款	項	目	執行済額 (円)	うち、令和5年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般会計	教育費	高等学校費	高等学校管理費	526,350	0
	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	77,000	0
計					603,350	0
(14) 工事請負費	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費	0	0
計					0	0
(16) 公有財産購入費						
計					0	0
(17) 備品購入費	一般会計	教育費	高等学校費	高等学校管理費	0	0
計					0	0
(18) 負担金、補助及び交付金	一般会計	教育費	高等学校費	高等学校管理費	117,500	0
計					117,500	0
(21) 補償、補填及び賠償金						
計					0	0

□□□□□

委託料に関する調

（令和６年度）

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額 当初額	契約金額 変更増減額	契約金額 計	契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
1	(事務関係) 静岡県立小笠高等学校外４校浄化槽保守点検業務	中遠環境保全㈱	円 1,876,270	円 1,772,320	円	円 1,772,320	指名	６.４.１ ～ ７.３.31	6.5.27 6.6.25 6.7.25 6.8.26 6.9.25 6.10.25 6.11.25 6.12.25 7.1.27 7.2.28 7.3.25 7.4.25 小計	円 205,644 124,465 148,527 129,552 153,504 166,540 153,616 124,465 153,506 129,553 148,528 124,465 1,762,365	小笠、掛川東、掛川工業、横須賀高校、掛川特支の浄化槽保守点検 点検回数 ３回～26回	
2	一般廃棄物収集運搬処分業務	㈱３MEN	可燃物 132円/kg 資源物 352円/kg	可燃物 110円/kg 資源物 308円/kg		可燃物 110円/kg 資源物 308円/kg	随契	6.4.8 ～ 7.3.31	6.5.27 6.6.25 6.7.25 6.8.26 6.9.25 6.10.25 6.11.25 6.12.25 7.1.27 7.2.28 7.3.25 7.4.25 小計	13,926 33,330 14,278 24,816 4,884 13,420 11,308 35,838 23,958 14,454 15,686 9,438 215,336	一般廃棄物の収集運搬 N： 設置箇所 １箇所 収集回数 可燃週 ２回 資源週 １回	随契 １号 (少額) 単価契約
3	茶袋詰加工業務	佐々木製茶㈱	5,280	5,280		5,280	随契	6.5.16 ～ 6.6.30	6.6.21	5,280	仕上茶袋詰加工業務	随契 １号 (少額)
4	食品流通棟防鼠防虫業務	ニッケン消毒㈱	259,600	220,000		220,000	随契	6.8.16 ～ 6.9.6	6.9.20	220,000	食品流通棟防鼠防虫業務	随契 １号 (少額)
5	産業廃棄物収集運搬及び処分業務	㈱ハイナン	91,300	91,300		91,300	随契	6.8.8 ～ 6.12.16	6.12.24	91,300	産業廃棄物収集・運搬処分(廃棄物)	随契 １号 (少額)
6	産業廃棄物収集運搬及び処分業務	㈱静岡資源	48,896	49,896		49,896	随契	7.1.29 ～ 7.3.31	7.3.28	49,896	産業廃棄物収集・運搬処分(蛍光管・乾電池)	随契 １号 (少額)
	事務関係計	件 6								円 2,344,177		
	工事関係計	件 0								件 0		
	合計	件 6								円 2,344,177		

（参考）

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額 当初額	契約金額 変更増減額	契約金額 計	契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				円	円	円						
参考1	静岡県立掛川西高等学校外７校警備業務	綜合警備保障㈱静岡支社		10,021,440		10,021,440		6.10.1～11.9.30			掛川東、掛川西、掛川工業、小笠、池新田、横須賀、掛川特支、掛川特支御前崎分校の機械警備	掛川西高校
参考2	静岡県立掛川工業高等学校外６校自家用電気工作物保安管理業務	遠鉄アシスト㈱		2,621,520	348,763	2,970,283		6.4.1～7.3.31			掛川工業、掛川西、掛川東、小笠、池新田、横須賀、掛川特支の自家用電気工作物保安管理	掛川工業高校
参考3	静岡県立掛川東高等学校外７校消防用設備等保守点検業務	静岡県消防設備保守点検業協同組合		6,985,000		6,985,000		6.4.1～7.3.31			掛川東、掛川西、掛川工業、小笠、横須賀、池新田、掛川特支御前崎分校、掛川特支の消防設備保守点検	掛川東高校
参考4	静岡県立池新田高等学校ほか６校水泳プール浄化装置保守点検業務	清化工業㈱		330,000		330,000		6.4.5～6.12.27			掛川東、掛川西、掛川工業、小笠、池新田、横須賀、掛川特支のプール浄化装置設備保守点検	池新田高校
参考5	小笠高等学校自動火災報知設備更新他工事設計業務	㈱セイワ設計		775,000		775,000		6.6.13～6.11.11			自動火災報知設備更新他に係る工事設計委託業務	交通基盤部設備課

参考6	掛川菊川地区県立学校建築基準法12条に基づく定期点検業務	福田一級建築士事務所		2,420,000		2,420,000		6.9.20 ～ 6.12.27			掛川東、掛川西、掛川工業、小笠、池新田、横須賀、掛川特支の建築基準法第12条に基づく定期点検	掛川東高校
	計	6 件										

□□□□□

委託料に関する調

（令和７年度）
（令和７年８月31日現在）

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
1	(事務関係) 静岡県立小笠高等学校外４校浄化槽保守点検業務	中遠環境保全㈱	円 1,866,040	円 1,762,365	円	円 1,762,365	指名	7.4.1 ～ 8.3.31	7.5.26 7.6.25 7.7.25 7.8.26 小計	円 200,750 124,465 148,555 129,580 603,350	小笠、掛川東、掛川工業、横須賀高校、掛川特支の浄化槽保守点検 Ｎ： 点検回数 3回～26回	
2	茶袋詰加工業務	佐々木製茶㈱	4,400	4,400		4,400	随契	7.5.19 ～ 7.6.30			茶袋詰加工業務	随契 １号 (少額)
	事務関係計	件 2								603,350		
	工事関係計	件 0										
	合計	2件								603,350		

（参考）

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額 当初額	契約金額 変更増減額	契約金額 計	契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
参考1	静岡県立掛川西高等学校外７校警備業務	綜合警備保障㈱静岡支社		円 10,021,440	円	円 10,021,440		6.10.1 ～ 11.9.30			掛川東、掛川西、掛川工業、小笠、池新田、横須賀、掛川特支、掛川特支御前崎分校の機械警備	掛川西高校
参考2	静岡県立掛川工業高等学校外６校自家用電気工作物保安管理業務	遠鉄アシスト㈱		2,985,840		2,985,840		7.4.1 ～ 8.3.31			掛川工業、掛川西、掛川東、小笠、池新田、横須賀、掛川特支の自家用電気工作物保安管理	掛川工業高校
参考3	静岡県立掛川東高等学校外７校消防用設備等保守点検業務	静岡県消防設備保守点検業協同組合		71,940,000		7,194,000		7.4.1 ～ 8.3.31			掛川東、掛川西、掛川工業、小笠、横須賀、池新田、掛川特支御前崎分校、掛川特支の消防設備保守点検	掛川東高校
参考4	静岡県立掛川工業高等学校外５校可燃物収集運搬及び処分業務委託	株式会社中部カレット		収集運搬料 １回あたり 2,200 処分料 １kgあたり 16.5		収集運搬料 １回あたり 2,200 処分料 １kgあたり 16.5		7.4.9 ～ 8.3.31			掛川東、掛川西、掛川工業、小笠、横須賀、掛川特支の可燃物収集運搬及び処分業務	掛川工業高校
	計	4 件										

□□□□□

負担金支出調

（令和６年度）

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	全国総合学科高等学校長協会会費（９校分）	全国総合学科高等学校長協会	規約第16条	全国総合学科高等学校長協会事業	円 90,000	６.４.23
2	全国高等学校長協会総会・研究協議会参加費	全国高等学校長協会	開催通知	全国高等学校長協会総会・研究協議会	4,000	６.５.１
3	全国高等学校農場協会関東支部大会参加費	第73回全国高等学校農場協会関東支部大会実施委員長	開催通知	全国高等学校農場協会関東支部大会	3,500	６.６.24
4	東海四県高等学校長生徒指導連絡協議会参加費	東海四県高等学校長生徒指導連絡協議会	開催通知	東海四県高等学校長生徒指導連絡協議会	2,000	６.７.４
5	東海地区総合学科高等学校長協会会費	東海地区総合学科高等学校長協会	規約第４条	東海地区総合学科高等学校長協会事業	10,000	６.７.５
6	東海四県高等学校長連絡協議会総会・研究協議会参加費	東海四県高等学校長連絡協議会	開催要項	東海四県高等学校長連絡協議会総会・研究協議会	2,000	６.７.８
7	学校運営等研究協議会参加費	全国農業高等学校長協会	開催通知	学校運営等研究協議会	5,000	６.７.10
8	全国高等学校総合学科教育研究大会高知大会参加費（３人分）	第29回全国高等学校総合学科教育研究大会高知大会実行委員会	開催通知	全国高等学校総合学科教育研究大会高知大会	12,000	６.８.27
9	日本学校農業クラブ全国大会岩手大会参加費	第75回日本学校農業クラブ全国大会令和６年度岩手大会事務局長	開催通知	日本学校農業クラブ全国大会岩手大会	5,000	６.10.17
10	大井川右岸土地改良区賦課金	大井川右岸土地改良区	大井川右岸土地改良区定款	大井川右岸土地改良区事業	102,150	６.10.18
11	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料（前期542人分）	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	31,412,700	６.10.31
12	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料（７～９月分１人）	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	29,700	６.11.26

13	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料（７～９月分２人）	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	59,400	６.11.27
14	ボイラー取扱技能講習受講料	一般社団法人日本ボイラ協会静岡支部	講習会受講案内	ボイラー取扱技能講習	16,500	６.11.29
15	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料（後期525人分）	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	31,155,300	７．１.31
計		15件			62,909,250	

□□□□□

負担金支出調

（令和７年度）

（令和７年８月31日現在）

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	全国高等学校長協会総会・研究協議会参加費	全国高等学校長協会	開催通知	全国高等学校長協会総会・研究協議会	円 4,000	７.５.１
2	全国総合学科高等学校長協会会費（９校分）	全国総合学科高等学校長協会	規約第16条	全国総合学科高等学校長協会事業	90,000	７.５.22
3	東海地区工業高等学校長教育研究会総会・研究協議会参加費	東海地区工業高等学校長教育研究会	開催通知	東海地区工業高等学校長教育研究会総会・研究協議会	3,000	７.６.25
4	全国高等学校農場協会関東支部大会参加費	第74回全国高等学校農場協会関東支部大会実施委員長	参加申込要領	全国高等学校農場協会関東支部大会	3,500	７.６.26
5	東海地区総合学科高等学校長協会会費	東海地区総合学科高等学校長協会	規約第４条	東海地区総合学科高等学校長協会事業	10,000	７.６.27
6	東海四県高等学校長連絡協議会総会・研究協議会参加費	東海四県高等学校長連絡協議会	開催通知	東海四県高等学校長連絡協議会総会・研究協議会	2,000	７.７.８
7	学校運営等研究協議会参加費	全国農業高等学校長協会	開催要項	学校運営等研究協議会	5,000	７.７.11
計		７件			117,500	

建　　築　　工

整理番号	予算科目	工事名	工事箇所	当初設計金額	契約金 当初額	契約金 変更増減額
				円	円	円
1	教育管理費	小笠高等学校引込高圧ケーブル更新工事	菊川市東横地地内	1,210,000	1,188,000	0
				円	円	円
2	教育管理費	小笠高等学校３棟ハードウェア実習室空調設備更新工事	菊川市東横地地内	6,193,000	5,885,000	0
				円	円	円
3	教育管理費	小笠高等学校高田ヶ丘農場防霜ファン他撤去処分工事	菊川市半済地内	1,760,000	1,573,000	154,000
		合　計	３　件	9,163,000	8,646,000	154,000

（参考）

整理番号	予算科目	工事名	工事箇所	当初設計金額	契約金 当初額	契約金 変更増減額
1	教育管理費	小笠高等学校屋外給水配管更新工事	菊川市東横地地内	36,245,000	34,650,000	6,677,000
2	教育管理費	小笠高等学校高田ヶ丘実習地農機具実習室他解体工事	菊川市半済地内	35,497,000	28,204,000	1,177,000
		合　計	１　件	71,742,000	62,854,000	7,854,000

整理番号	予算科目	工事名	工事箇所	当初設計金額	契約金 当初額	契約金 変更増減額
				円	円	円
1	教育管理費	小笠高等学校３棟情報処理実習室空調設備更新工事	菊川市東横地地内	7,854,000	7,645,000	0
		合　計	１　件	7,854,000	7,645,000	0

（参考）

整理番号	予算科目	工事名	工事箇所	当初設計金額	契約金 当初額	契約金 変更増減額
1	教育管理費	小笠高等学校茶業実習室他屋根改修工事	菊川市東横地地内	78,903,000	75,790,000	0
		合　計	１　件	78,903,000	75,790,000	0

事　　調

（令和６年度）

額 計	契約締結方法	受注者	着手 完成(予定) 年月日	支出済額	工事概要	公有財産台帳	摘要
円 1,188,000	随契	土井電気工事株式会社	着手 6.6.11 完成 6.8.29	円 1,188,000	引込高圧ケーブルの更新工事	―	令達年月日 6.6.5 最終支払日 6.9.25 随契１号(少額)
円 5,885,000	指名	株式会社掛川空調サービス	着手 7.1.20 完成 7.3.21	円 5,885,000	３棟ハードウェア実習室の空調設備更新工事	済	令達年月日 6.12.10 最終支払日 7.4.9
円 1,727,000	随契	株式会社沖開発	着手 6.12.26 完成 7.2.28	円 1,727,000	高田ヶ丘農場の防霜ファン他撤去工事	済	令達年月日 6.12.18 最終支払日 7.3.19 随契１号(少額)
8,800,000				8,800,000			

額 計	契約締結方法	受注者	着手 完成(予定) 年月日	支出済額	工事概要	公有財産台帳	摘要
41,327,000	一般	株式会社トダックス	着手 6.7.2 完成 7.1.30	41,327,000	小笠高校屋外給水配管の更新工事	―	交通基盤部 設備課
29,381,000	一般	株式会社覚堂	着手 6.9.24 完成 7.2.6	29,381,000	小笠高校高田ヶ丘農場実習地の解体工事 ７棟	―	交通基盤部 袋井土木事務所
70,708,000				70,708,000			

（令和７年度）
（令和７年８月31日現在）

額 計	契約締結方法	受注者	着手 完成(予定) 年月日	支出済額	工事概要	公有財産台帳	摘要
円 7,645,000	指名	株式会社掛川空調サービス	着手 7.6.23 完成 7.8.21	円 0	情報処理実習室の空調設備更新工事	予	令達年月日 7.5.14
7,645,000				0			

額 計	契約締結方法	受注者	着手 完成(予定) 年月日	支出済額	工事概要	公有財産台帳	摘要
75,790,000	一般	株式会社増田組	着手 7.7.8 完成(予定) 8.3.13	0	小笠高校茶業実習室及び栽培棟の屋根改修(カバー工法)	―	交通基盤部 袋井土木事務所
75,790,000				0			

□□□□□

公 有 財 産 調

（令和６年度）

区　　分	令和6年3月31日 現　在		増		減		令和7年3月31日 現　在		摘要
	数量又は面積	台　帳価　格	数量又は面積	台　帳価　格	数量又は面積	台　帳価　格	数量又は面積	台　帳価　格	
行政財産		千円 2,862,160		千円 294		千円 55,463		千円 2,806,991	
土　地	㎡ 175,322.70	2,125,969					㎡ 175,322.70	2,125,969	
立木竹	本 67	1,415					本 67	1,415	
建　物	㎡ 10,494.62 18,410.80	648,500	0 0		672.11 617.96	46,225	㎡ 9,822.51 17,792.84	602,275	
工作物	個 135	86,276	1	294		9,238	個 136	77,332	
公有財産に準ずるもの		441						441	
電話加入権	件 6	441					件 6	441	

□□□□□

公 有 財 産 調

（令和７年度）

(令和７年８月31日現在)

区　　分	令和7年3月31日 現　在		増		減		令和7年8月31日 現　在		摘要
	数量又は面積	台　帳 価　格	数量又は面積	台　帳 価　格	数量又は面積	台　帳 価　格	数量又は面積	台　帳 価　格	
行政財産		千円 2,806,991		千円		千円		千円 2,806,991	
土　地	㎡ 175,322.70	2,125,969					㎡ 175,322.70	2,125,969	
立木竹	本 67	1,415					本 67	1,415	
建　物	㎡ 9,822.51 / 17,792.84	602,275					㎡ 9,822.51 / 17,792.84	602,275	
工作物	個 136	77,332					個 136	77,332	
公有財産に準ずるもの		441						441	
電話加入権	件 6	441					件 6	441	

□□□□□

借地借家等調

（令和７年８月31日現在）

整理番号	区分	種　別	所在地	地　目		数量又は面積	借　料		契　約期　間	所有者又は契約者氏名	用　途
				台　帳	現　況		単　価	年　額			
1	土地	山林	菊川市小出字丹ノ谷508－8	山林	山林	㎡ 69.00	円 —	円 無償	3.4.1 ～ 8.3.31	（一社）小笠高等学校後援会長	学校敷地
2	土地	山林	菊川市小出字鉄砲山594	山林	山林	107.00	—	無償	3.4.1 ～ 8.3.31	（一社）小笠高等学校後援会長	学校敷地
3	土地	土地	菊川市東横地1222-6	土地	水路	10.75	—	無償	7.4.1 ～ 12.3.31	大井川右岸土地改良区理事長	橋梁
4	土地	土地	菊川市東横地1222-6	土地	水路	43.20	—	無償	7.4.1 ～ 12.3.31	大井川右岸土地改良区理事長	階段
5	土地	土地	菊川市東横地1222-6	土地	水路	36.00	—	無償	7.4.1 ～ 12.3.31	大井川右岸土地改良区理事長	舗装
6	土地	土地	菊川市東横地1222-6	土地	水路	4.16	—	無償	7.4.1 ～ 12.3.31	大井川右岸土地改良区理事長	橋梁
7	土地	土地	菊川市東横地1222-6	土地	水路	90.28	—	無償	7.4.1 ～ 12.3.31	大井川右岸土地改良区理事長	生活館庭園敷地

8	土地	土地	菊川市 東横地1222-6	土地	水路	0.26	—	無償	7.4.1 ～ 12.3.31	大井川右岸土地改良区 理事長	配水管横断
9	土地	土地	菊川市 東横地1222-6	土地	水路	0.44	—	無償	3.4.1 ～ 13.3.31	大井川右岸土地改良区 理事長	排水桝
10	土地	土地	菊川市 西横地 618-1地先	土地	道路	0.28	—	無償	5.4.1 ～ 8.3.31	菊川市長	看板
11	土地	土地	菊川市 東横地 1222-3地先	土地	道路	19.8	—	無償	7.4.1 ～ 10.3.31	菊川市長	排水管
12	土地	土地	菊川市 東横地 1516-14地先	土地	道路	0.25	—	無償	5.4.1 ～ 8.3.31	菊川市長	暗渠パイプ
13	土地	土地	菊川市 東横地 1516-14地先	土地	道路	1.20	—	無償	6.4.1 ～ 9.3.31	菊川市長	排水管
	計	13件				382.62					
14	建物	事務所建	菊川市 東横地1222-3		鉄骨造ﾍﾞｽﾄ葺2階建	244.62 416.34	—	無償	7.4.1 ～ 12.3.31	静岡県立小笠高等学校同窓会長	生活館
15	建物	雑屋建	菊川市 東横地1222-3		プレハブ平屋建	9.72 9.72	—	無償	4.12.23 ～ 9.3.31	静岡県立小笠高等学校同窓会長	部室
16	建物	雑屋建	菊川市 東横地1222-3		プレハブ平屋建	58.80 58.80	—	無償	4.12.23 ～ 9.3.31	静岡県立小笠高等学校野球部OB会	部室

17	建物	雑屋建	菊川市 東横地1222-3		プレハブ平屋建	65.27 65.27	―	無償	4.12.23 ～ 9.3.31	静岡県立小笠高等学校サッカー部父母の会	部室
	計	４件				378.41 550.13					
18	工作物	舗床	菊川市 東横地1222-3	舗床	ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装	876.33	―	無償	4.4.1 ～ 9.3.31	静岡県立小笠高等学校PTA会長	生徒送迎用
19	工作物	雑工作物、やぐら	菊川市 東横地1222-3	野球部工作物	平屋建鉄製パイプ	27.74	―	無償	4.12.23 ～ 9.3.31	静岡県立小笠高等学校野球部OB会	物置、物見台
20	工作物	やぐら	菊川市 東横地 1222－3	やぐら	鉄パイプ	3.38	―	無償	4.12.23 ～ 9.3.31	静岡県立小笠高等学校サッカー部父母の会	物見台
21	工作物	冷暖房装置	菊川市 東横地 1222-3	冷暖房装置	冷暖房装置	１個	―	4,408,738	6.7.1 ～ 19.6.30	NTT・TCリース株式会社静岡支店	特別教室空調
22	工作物	舗床	菊川市 東横地 1222-3	舗床	舗装	106.38	―	無償	4.12.23 ～ 9.3.31	静岡県立小笠高等学校野球部OB会	野球部インターロッキング、土間コンクリート
	計	５件				1013.83		4,408,738			

□□□□□

事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調

（令和７年度）
（令和７年８月 31 日現在）

区分	事業名又は契約名	内容	契約額	（契約額の年度別内訳）					
				令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度
長期継続契約	カラー印刷機賃貸借	カラー印刷機 １台(職員室) (契約日) 令和６年４月１日	円 3,894,000	円 778,800	円 778,800	円 778,800	円 778,800	円 778,800	円
	電子複写機賃貸借	電子複写機　３台 (職員室・事務室・農場本部) 複写料金 1.0 円/枚（税抜き） (契約日) 令和６年５月 17 日	1,326,600	221,100	265,320	265,320	265,320	265,320	44,220

□□□□□

行政財産貸付・使用許可調

（令和７年８月31日現在）

整理番号	区分	種別	所在地	地目		数量又は面積	貸付料又は使用料		貸付又は使用許可期間	貸付又は使用許可を受けた者の氏名	貸付・使用許可目的
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	学校敷地	菊川市東横地1222-3	学校敷地	学校敷地	本柱3本支線5条	1,500	円 12,000	4.4.1～9.3.31	NTT西日本(株)静岡支店長	電気通信線路設備敷地
2	土地	学校敷地	菊川市東横地1222-3	学校敷地	学校敷地	4.00㎡	―	免除	7.4.1～12.3.31	静岡県立小笠高等学校同窓会長	胸像敷地
3	土地	学校敷地	菊川市東横地1222-3	学校敷地	学校敷地	450.00㎡	―	免除	7.4.1～12.3.31	静岡県立小笠高等学校同窓会長	生活館敷地
4	土地	学校敷地	菊川市東横地1222-3	学校敷地	学校敷地	支線1条	1,500	18,800	4.4.1～9.3.31	中部電力パワーグリッド(株)掛川営業所長	電気通信線路設備敷地
			菊川市半済511-1 511-2	学校敷地	畑	電柱7本支線3条	1,730				
5	土地	学校敷地	菊川市東横地1222-3	学校敷地	学校敷地	0.94㎡	―	免除	7.4.1～12.3.31	静岡県立小笠高等学校同窓会長	石碑敷地
6	土地	学校敷地	菊川市東横地1222-3	学校敷地	学校敷地	0.72㎡	―	免除	7.4.1～8.3.31	菊川市長	基準点敷地
7	土地	学校敷地	菊川市東横地1222-3	学校敷地	学校敷地	0.25㎡	―	免除	7.4.1～12.3.31	しずてつジャストライン(株)取締役社長	路線バス停留所標柱設置
8	建物	事務所建	菊川市東横地1222-3	RC	3階建	0.50㎡	―	免除	7.4.1～12.3.31	菊川市長	防災無線設置
9	土地	学校敷地	菊川市東横地1222-3	学校敷地	学校敷地	876.33㎡	―	免除	7.4.1～12.3.31	静岡県立小笠高等学校PTA会長	生徒送迎車昇降所敷地
10	土地	学校敷地	菊川市東横地1222-3	学校敷地	学校敷地	0.51㎡	―	免除	7.4.1～12.3.31	菊川市長	避難所看板敷地
11	土地	学校敷地	菊川市東横地1222-3	学校敷地	学校敷地	6.00㎡	―	免除	7.4.1～12.3.31	静岡県立小笠高等学校同窓会長	記念碑敷地

整理番号	区分	種別	所在地	地目		数量又は面積	貸付料又は使用料		貸付又は使用許可期間	貸付又は使用許可を受けた者の氏名	貸付・使用許可目的
				台帳	現況		単価	年額			
12	土地	学校敷地	菊川市東横地1222-3	学校敷地	学校敷地	12.50 ㎡	―	免除	7.4.1～12. 3.31	静岡県立小笠高等学校PTA会長	団体職員駐車場及び執務場所
	建物	事務所建		RC	3階建	3.30 ㎡					
13	土地	学校敷地	菊川市東横地1222-3	学校敷地	学校敷地	206.23m	―	免除	5.4.1～10.3.31	大井川右岸土地改良区理事長	農業用水（県営平田用水）
14	建物	事務所建	菊川市東横地1222-3	RC	3階建	0.25 ㎡	―	免除	7.4.1～12.3.31	一般社団法人静岡県立小笠高等学校後援会長	小物入れロッカー
		倉庫建		S	1階建	0.5 ㎡					
15	土地	学校敷地	菊川市東横地1222-3	学校敷地	学校敷地	4.00 ㎡	―	165,833	5. 4. 1～8. 3.31	㈱ダイドービバレッジ静岡	自動販売機敷地
16	建物	事務所建	菊川市東横地1222-3	RC	3階建	4.00 ㎡	―	908,836	5. 4. 1～8. 3.31	サントリービバレッジソリューション㈱	自動販売機敷地
17	建物	事務所建	菊川市東横地1222-3	SRC	2階建	2.00 ㎡	―	182,886	5. 4. 1～8. 3.31	㈱ダイドービバレッジ静岡	自動販売機敷地
18	土地	学校敷地	菊川市東横地1222-3	学校敷地	学校敷地	8.16 ㎡	―	免除	7. 4. 1～12. 3.31	静岡県立小笠高等学校PTA会長	記念碑敷地
19	土地	学校敷地	菊川市東横地1222-3	学校敷地	学校敷地	5.00 ㎡	―	免除	7. 4. 1～10. 3.31	一般社団法人静岡県立小笠高等学校後援会長	購買敷地
20	建物	事務所建	菊川市東横地1222-3	RC	2階建	0.84 ㎡	―	2,220	7. 4. 1～10. 3.31	松本印刷㈱	デジタルサイネージ設置
合計								1,290,575			

□□□□□

主　要　備　品　調

（令和７年８月３１日現在）

整理番号	区分 大・中	区分 小	品名・規格	利用状況	購入年月	購入金額
1	７－１	加工用機器	加工用機器 製茶機械装置	年間約25日 製茶実習に使用	平成７年３月	円 52,015,000
2	５－９９	試験実験機器	ハードウェア実習装置・新興技術	年間約200日 ハードウェア実習に使用	平成12年３月	22,564,500
3	７－１	環境整備用機器	環境整備用機器 環境制御装置	年間365日 温室で使用	平成７年２月	20,457,904
4	２－１	パーソナルコンピュータ（一式）	ハードウェア実習装置	年間約200日 ハードウェア実習に使用	平成８年３月	17,303,897
5	５－３	その他の電気試験計測機器	その他の電気試験計測機器・通信実習装置	年間約20日 通信技術・工業基礎実習に使用	平成10年３月	15,645,000
6	６－９９	その他の諸機器	その他の諸機器 CAD実習装置	年間約200日 CAD 実習に使用	令和４年２月	14,938,000
7	２－１	パーソナルコンピュータ（一式）	パーソナルコンピュータ（一式）・デザイン実習装置一式	年間約200日 デザイン実習に使用	令和４年２月	13,838,000
8	７－１	加工用機器	加工用機器 製茶機械装置	年間約25日 製茶実習に使用	平成26年11月	10,704,511
9	２－１	パーソナルコンピュータ（一式）	パーソナルコンピュータ一式・情報基礎実習装置一式	年間約200日 情報基礎実習に使用	令和２年３月	9,889,000
10	５－９９	試験実験機器	工業基礎実験装置・ロボット等	年間約20日 工業基礎実習に使用	平成８年３月	8,772,716
11	７－１	加工用機器	乾燥火入機 落合式6007型	年間約25日 製茶実習に使用	平成13年３月	7,560,000
12	１０－２	その他の語学用器具	LLシステム ビクターLL―69	年間約200日 外国語実習に使用	平成８年９月	6,901,000
13	７－１	加工用機器	加工用機器 製茶プラント	年間約25日 製茶実習に使用	昭和63年３月	6,505,000
14	７－１	育成用機器	育成用機器 温室制御装置	年間365日 温室で使用	平成31年３月	6,242,400

15	７－１	環境整備用機器	環境整備用機器 環境制御装置	年間365日 温室で使用	令和３年11月	6,050,000
16	２－１	パーソナルコンピュータ（一式）	県立学校ICT環境整備機器一式	年間約200日 情報処理実習に使用	令和１年８月	5,913,648
17	７－１	環境整備用機器	環境制御システム	年間約365日 温室で使用	平成９年３月	5,613,500
18	５－４	クロマトグラフ	クロマトグラフ イオンクロマトグラフ	年間約25日 食品化学実習に使用	平成４年２月	4,861,600
19	２－１	パーソナルコンピュータ（一式）	情報基礎実習装置一式	年間約200日 情報処理実習に使用	平成23年３月	4,402,930
20	５－９９	試験実験機器	その他の試験実験機器 制御装置ソフトウェア付	年間約365日 温室で使用	平成２年３月	3,965,500

□□□□□

生 産 物 受 払 調

（令和７年８月31日現在）

区分 ＼ 品名（単位）		茶生葉（kg）				荒茶（kg）				仕上茶（kg）			
		令和５年度 a	令和６年度 b	令和７年8月31日現在	差 b－a	令和５年度 a	令和６年度 b	令和７年8月31日現在	差 b－a	令和５年度 a	令和６年度 b	令和７年8月31日現在	差 b－a
作付面積（㎡）（ア）		5,404	5,404	0	0.0	5,404	5,404	0	0.0	5,404	5,404	0	0.0
受高	前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	本年度生産高（イ）	230.0	290.0	0.0	60.0	46.0	58.3	42.6	12.3	30.0	32.0	20.0	2.0
	計	230.0	290.0	0.0	60.0	46.0	58.3	42.6	12.3	30.0	32.0	20.0	2.0
単位数量（イ／ア）		0.04	0.05	0.00	0.01	0.01	0.01	0.00	0.00	0.01	0.01	0.00	0.00
同前年比（%）（b－a）／a×100					26.1				26.7				6.7
払高	売払数量	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	32.0	20.0	12.0
	売払金額	0	0	0	0	0	0	0	0	100,000	160,000	100,000	60,000
	非売品数量 分類換	230.0	290.0	0	60.0	46.0	58.3	42.6	12.3	10.0	0.0	0.0	△ 10.0
	非売品数量 管理換その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	計	230.0	290.0	0.0	60.0	46.0	58.3	42.6	12.3	30.0	32.0	20.0	2.0
残高又は繰越数量		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
摘要													

区分 ＼ 品名（単位）		メロン（個）				ミニトマト(kg)				葉物（袋）			
		令和５年度 a	令和６年度 b	令和７年8月31日現在	差 b－a	令和５年度 a	令和６年度 b	令和７年8月31日現在	差 b－a	令和５年度 a	令和６年度 b	令和７年8月31日現在	差 b－a
作付面積（㎡）（ア）		510	510	510	0.0	126	126	126	0.0	63	63	63	0.0
受高	前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	本年度生産高（イ）	427	418	438	△ 9	350.6	302.2	0.0	△ 48.4	303	240	0	△ 63
	計	427	418	438	△ 9	350.6	302.2	0.0	△ 48.4	303	240	0	△ 63
単位数量（イ／ア）		0.84	0.82	0.86	△ 0.02	2.78	2.40	0.00	△ 0.38	4.81	3.81	0.00	△ 1.00
同前年比（%）（b－a）／a×100					△ 2.1				△ 13.8				△ 20.8
払高	売払数量	404	386	404	△ 18	350.6	302.2	0.0	△ 48.4	303	240	0	△ 63
	売払金額	659,312	559,348	745,951	△ 99,964	363,713	397,694	0	33,981	22,736	23,413	0	677
	非売品数量 分類換	23	32	21	9	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0	0	0.0
	非売品数量 管理換その他	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0	0	0.0
	計	427	418	425	△ 9	350.6	302.2	0.0	△ 48.4	303	240	0	△ 63
残高又は繰越数量		0	0	13	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0	0	0.0
摘要													

区分 ＼ 品名（単位）		草花　苗・プランター（鉢）				露地　野菜　(kg)				露地　野菜　(本)			
		令和５年度 a	令和６年度 b	令和７年8月31日現在	差 b－a	令和５年度 a	令和６年度 b	令和７年8月31日現在	差 b－a	令和５年度 a	令和６年度 b	令和７年8月31日現在	差 b－a
作付面積（㎡）（ア）		260	260	260	0.0	150	150	150	0.0	0	150	150	150.0
受高	前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	本年度生産高（イ）	10,269	13,722	3,987	3,453	126.7	232.6	29.1	105.9	0	89	33	89
	計	10,269	13,722	3,987	3,453	126.7	232.6	29.1	105.9	0	89	33	89
単位数量（イ／ア）		39.50	52.78	15.33	13.28	0.84	1.55	0.19	0.71	0.00	0.59	0.22	0.59
同前年比（%）（b－a）／a×100					33.6				0.0				
払高	売払数量	10,269	13,722	3,987	3,453	126.7	232.6	29.1	105.9	0	89	33	89
	売払金額	714,380	917,560	239,220	203,180	28,620	71,270	25,050	42,650	0	11,730	4,590	11,730
	非売品数量 分類換	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0
	非売品数量 管理換その他	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0	0	0
	計	10,269	13,722	3,987	3,453	126.7	232.6	29.1	105.9	0	89	33	89
残高又は繰越数量		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
摘要													

□□□□□

生　産　物　受　払　調

（令和７年８月31日現在）

区分 ＼ 品名（単位）		露地　野菜苗　(鉢)				露地　野菜(袋)				計			
		令和５年度 a	令和６年度 b	令和７年8月31日現在	差 b－a	令和５年度 a	令和６年度 b	令和７年8月31日現在	差 b－a	令和５年度 a	令和６年度 b	令和７年8月31日現在	差 b－a
作付面積（㎡）（ア）		35	35	35	0.0	0	0	12	0.0				
受高	前年度繰越高	0	0	0	0	0	0	0	0				
	本年度生産高（イ）	139	227	186	88	0	0	13	0				
	計	139	227	186	88	0	0	13	0				
単位数量（イ／ア）		3.97	6.49	5.31	2.52	0.00	0.00	1.08	0.00				
同前年比（%）（b－a）／a×100					0.0				1.0				
払高	売払数量	139	227	186	88	0	0	13	0				
	売払金額	10,040	17,180	19,710	7,140	0	0	1,950	0	1,898,801	2,158,195	1,136,471	259,394
	非売品数量 分類換	0	0	0	0	0	0	0	0				
	非売品数量 管理換その他	0	0	0	0	0	0	0	0				
	計	139	227	186	88	0	0	13	0				
残高又は繰越数量		0	0	0	0	0	0	0	0				
摘要													

生産物受払調　単位数量変動要因把握事項

品名	単位数量前年比	変動要因
茶生葉	0.01	外部からの発注により収穫量を増やしたため
メロン	△0.02	天候不順により出荷規格を満たさなかった物の増加
ミニトマト	△ 0.38	天候不順により出荷規格を満たさなかった物の増加
葉物	△ 1.00	天候不順による減少
草花　苗・プランター	13.28	外部からの発注により生産量を増やしたため
露地　野菜（kg）	0.71	需要が見込めるため生産量を増やしたため
露地　野菜（本）		令和６年度から
露地　野菜苗	2.52	需要が見込めるため生産量を増やしたため
露地　野菜（袋）		令和7年度から

□□□□□

職　　員　　調

(令和７年８月31日現在)

整理番号	職　名	氏　名	事務分担	住　所	勤務年数	摘　　要
1	校　長	小木　充	総括	□□□	□□□	□□□
2	副校長	西村　尚記	総括補助	□□□	□□□	□□□
3	教　頭	望月　達彦	農業	□□□	□□□	□□□
4	事務長	北村江吏子	総括	□□□	□□□	□□□
5	教　諭	伊藤　裕啓	国語	□□□	□□□	□□□
6	教　諭	齊藤　真那	国語	□□□	□□□	□□□
7	教　諭	島陰　大輔	国語	□□□	□□□	□□□
8	教　諭	徳田　真広	国語	□□□	□□□	□□□
9	教　諭	平野　佳子	国語	□□□	□□□	□□□
10	教　諭	飯田　彰宏	地歴公民	□□□	□□□	□□□
11	教　諭	岡本　芳亮	地歴公民	□□□	□□□	□□□
12	教　諭	髙橋　耕介	地歴公民	□□□	□□□	□□□
13	教　諭	三川　功耀	地歴公民	□□□	□□□	□□□
14	教　諭	伊藤　直文	数学	□□□	□□□	□□□
15	教　諭	太田　　直	数学	□□□	□□□	□□□
16	教　諭	杉本　達希	数学	□□□	□□□	□□□
17	教　諭	森本　菜穂美	数学	□□□	□□□	□□□
18	教　諭	山田　敦久	数学	□□□	□□□	□□□
19	教　諭	曽根　三千広	理科	□□□	□□□	□□□
20	教　諭	大塚　早彌香	理科	□□□	□□□	□□□
21	教　諭	後藤　竜太朗	理科	□□□	□□□	□□□
22	教　諭	橋本　勝明	理科	□□□	□□□	□□□
23	教　諭	伊藤　武郎	保健体育	□□□	□□□	□□□
24	教　諭	大原　尚喜	保健体育	□□□	□□□	□□□
25	教　諭	澤入　正通	保健体育	□□□	□□□	□□□
26	教　諭	堀内　夢子	保健体育	□□□	□□□	□□□
27	教　諭	待谷　健一郎	保健体育	□□□	□□□	□□□
28	教　諭	白濵　久世	芸術(音)	□□□	□□□	□□□
29	教　諭	神谷　洋介	芸術(美)	□□□	□□□	□□□
30	教　諭	大野　成美	外国語	□□□	□□□	□□□
31	教　諭	暮林　健也	外国語	□□□	□□□	□□□
32	教　諭	外村　健二	外国語	□□□	□□□	□□□
33	教　諭	中村　公彦	外国語	□□□	□□□	□□□
34	教　諭	守屋　加織	外国語	□□□	□□□	□□□
35	教　諭	杉田　絢子	家庭	□□□	□□□	□□□
36	教　諭	栂尾　雅知子	家庭	□□□	□□□	□□□
37	教　諭	村井　雅子	家庭	□□□	□□□	□□□

整理番号	職　名	氏　名	事務分担	住　所	勤務年数	摘　　要
38	教　諭	石田　鉄弥	農業	□□□	□□□	□□□
39	教 諭(実)	澤崎　忠志	農業	□□□	□□□	□□□
40	教 諭(実)	杉村　直哉	農業	□□□	□□□	□□□
41	教　諭	髙木　農	農業	□□□	□□□	□□□
42	教　諭	髙橋　実鈴	農業	□□□	□□□	□□□
43	教 諭(実)	戸澤　莉穂	農業	□□□	□□□	□□□
44	教　諭	福元　達也	農業	□□□	□□□	□□□
45	教　諭	鈴木　裕貴	工業	□□□	□□□	□□□
46	教 諭(実)	戸塚　貴紀	工業	□□□	□□□	□□□
47	教　諭	永代　創造	工業	□□□	□□□	□□□
48	教　諭	石原　一義	商業	□□□	□□□	□□□
49	教　諭	澤田新太郎	商業	□□□	□□□	□□□
50	教　諭	糠谷　充宏	商業	□□□	□□□	□□□
51	教　諭	増田　昭仁	商業	□□□	□□□	□□□
52	教　諭	稲垣　敦子	福祉	□□□	□□□	□□□
53	養護教諭	木村　絵理	養護	□□□	□□□	□□□
54	主任実習助手	堀　佳織	商業	□□□	□□□	□□□
55	実習助手	奥平　智博	農業	□□□	□□□	
56	実習助手	佐野　明史	農業	□□□	□□□	
57	主　査	松本　正伸	会計	□□□	□□□	□□□
58	主　査	渡辺　健蔵	庶務・会計	□□□	□□□	□□□
59	主　任	落合　暢之	管財	□□□	□□□	□□□
60	主　事	赤堀　虹花	庶務・会計	□□□	□□□	□□□
平均年数					４年０月	

臨時・非常勤職員等

1	教 諭(任)	良知　なつ美	地歴公民	□□□	□□□	□□□
2	教 諭(臨)	和田　真子	美術	□□□	□□□	□□□
3	教 諭(任)	中山　智子	家庭	□□□	□□□	□□□
4	教 諭(臨)	久保田　強	工業	□□□	□□□	□□□
5	教 諭(臨)	木下　尚記	工業	□□□	□□□	□□□
6	外国語指導講師	Robert Castillo-olivares	英語	□□□	□□□	
7	非常勤講師	田辺　晃一	音楽	□□□	□□□	□□□
8	非常勤講師	田辺　隆宏	書道	□□□	□□□	□□□
9	非常勤講師	丸尾喜美子	家庭	□□□	□□□	□□□
10	非常勤講師	小野　正幸	工業	□□□	□□□	□□□
11	非常勤講師	山本　晃丈	情報	□□□	□□□	□□□
12	非常勤講師	佐野　尚美	美術	□□□	□□□	□□□
13	非常勤講師	春田　純子	美術	□□□	□□□	□□□
14	非常勤講師	樫山　秀寿	英語	□□□	□□□	□□□
15	非常勤講師	齊藤　功	英語	□□□	□□□	□□□

整理番号	職　名	氏　名	事務分担	住　所	勤務年数	摘　　要
16	非常勤労務職員	岡本　道夫		□□□	□□□	
17	非常勤労務職員	倉山　真一		□□□	□□□	
18	非常勤労務職員	山本　昭三		□□□	□□□	
19	非常勤労務職員	鈴木　郁雄		□□□	□□□	
20	非常勤労務職員	川本　悦久		□□□	□□□	
21	非常勤労務職員	原口　道夫		□□□	□□□	

□□□□□

職員の年齢調

（令和７年８月31日現在）

年　　齢	人　　員	摘　　要
２０歳未満	０人	
２０歳以上３０歳未満	６人	
３０歳以上４０歳未満	16人	
４０歳以上５０歳未満	10人	
５０歳以上５６歳未満	14人	
５６歳以上６１歳未満	６人	
６１歳以上	８人	暫定再任用８人
計	60人	平均年齢　46.5歳

□□□□□

健康管理

1　令和６年度受診状況

区　　分	内　　容
受　診　状　況	受診者数　59人 職 員 数　59人
受　　診　　率	100 %
県平均受診率	100 %

(1) 未受診の理由

2　令和７年度在籍者の健康管理区分結果

健　康　管　理　区　分			人　数
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		0人
B１	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要　治　療	0人
B２		要経過観察	0人
C１	勤務をほぼ平常に行ってよいが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要　治　療	0人
C２		要経過観察	0人
D１	平常の勤務でよい。	要　治　療	21(11)人
D２		要経過観察	24(17)人
D３		医療不要	18(14)人
区分者計			63(42)人
未区分者数			2人
合　　計			65(42)人

(1) 管理区分Ａ～Ｃ２該当者に対する措置状況

(2) 未区分の理由

ア　産休・育休　1人
イ　新規採用　0人
ウ　自己都合による未受診　0人
エ　そ　の　他　1人